

第 97 回 全国獣医系大学代表者協議会 配付資料

共用試験実施に向けた作業の進捗状況について

共用試験員委員会

委員長 高井伸二

1. 検討状況 (資料 1-1、1-2、1-3)
2. 共用試験の基本的考え方について (資料 2-1～4)
3. 共用試験検討組織 (資料 3-1、3-2)
4. 今後の課題
 - a. 本格実施までのスケジュール (資料 4-a-1、4-a-2)
 - b. 運営体制の確立 (機構の設立) (資料 4-b-1、4-b-2)
 - c. 大学負担金及び受験料 (資料 4-c-1)
 - d. 実施環境の整備 (資料 4-d-1、4-d-2)
 - e. 追試験及び再試験制度
 - f. 試験結果の取扱い (判定基準等)
 - g. 問題検証システム (資料 4-g-1)
 - f. 獣医学共用試験の開発研究のためのアンケート調査 (科研) (資料 4-f-1)
5. 各小委員会及び関連委員会活動報告
 - a. vetCBT 問題マニュアル・フォーマット小委員会 (資料 5-a-1)
 - b. vetCBT 小委員会 (資料 5-b-1～4)
 - c. vetOSCE 準備小委員会 (資料 5-c-1、5-c-2)
 - d. トライアル実施小委員会 (資料 5-d-1)
 - e. 広報小委員会 (資料 5-e-1)
 - f. 獣医学教育モデル・コア・カリキュラム委員会 (資料 5-f-1)

資料一覧

- 資料 1-1: 第 1 回獣医学共用試験委員会議事録
- 資料 1-2: 第 2 回獣医学共用試験委員会議事録案
- 資料 1-3: 中央教育審議会大学分科会（第 1 0 8 回）大学教育部会（第 2 0 回）
- 資料 2-1: 共用試験に関する基本的な考え方
- 資料 2-2: 共用試験 Q & A
- 資料 2-3: 農水省：獣医師法 17 条の適用について（抜粋）
- 資料 2-4: CBT 問題の機密性に関する考え方:Q&A の補助資料
- 資料 3-1：組織体制図 ver8(H24. 8. 23)
- 資料 3-2：共用試験関連組織名簿
- 資料 4-a-1：共用試験スケジュール案
- 資料 4-a-2：共用試験スケジュール表案
- 資料 4-b-1：共用試験対照表
- 資料 4-b-2：定款
- 資料 4-c-1 初年度予算額
- 資料 4-d-1：CBT 実施に伴う設備・装置の比較
- 資料 4-d-2：低コスト・高安定の実施形式の提案
- 資料 4-g-1：項目反応理論を用いた共用試験 CBT
- 資料 4-f-1：参加型臨床実習における実習学生の質保証を目的とした獣医学共用試験の
開発研究のためのアンケート調査
- 資料 5-a-1：獣医学共用試験問題作成数
- 資料 5-b-1：CBT 問題精選作業工程図案（全体）
- 資料 5-b-2：CBT 問題精選作業工程図案（評価）
- 資料 5-b-3：vetCBT 問題内容検討部会
- 資料 5-b-4：CBT 問題精選プログラムマニュアル v2
- 資料 5-c-1：vetOSCE 準備小委員会報告
- 資料 5-c-2：vetOSCE 実施案図説
- 資料 5-d-1：トライアル実施小委員会
- 資料 5-e-1：共用試験 H P
- 資料 5-f-1：共通テキスト編集時に生じるマイナーチェンジの要望について

平成 24 年度 第 1 回獣医学共用試験委員会議事録

- 1 日 時 平成 24 年 4 月 20 日 (金) 10:00～15:15
- 2 場 所 東京大学農学部 尾崎教授室
- 3 委員 山下和人教授 (酪農学園大学) 北川 均教授 (岐阜大学)
高井伸二教授 (北里大学) 委員長 杉山 誠教授 (岐阜大学)
鷺巣月見教授 (日本獣医生命科学大学) (欠席) 浅井史敏教授 (麻布大学) (欠席)
遠藤大二教授 (酪農学園大学) (欠席) 尾崎 博教授 (東京大学)
澁谷 泉教授 (鳥取大学) 杉浦勝明教授 (東京大学)
オブザーバー (株)ジンジャーアップ 松本博希氏 (開発部グループリーダー)

4. 議題

1) 獣医学共用試験委員会

共用試験委員会について検討し、各小委員会の正副責任者を委員とし、以下の 14 名で構成することとした。

- 共用試験委員会：高井・杉山
- 大学代表者会議：尾崎
- vetCBT 小委員会：(杉山)・稲葉・杉浦
- vetCBT 問題FM委員会：浅井・遠藤
- vetOSCE 準備委員会：北川・鷺巣
- トライアル実施委員会：(高井)・山下・望月
- 広報委員会：澁谷・(遠藤)・堀・北村

(1) 委員長より科研費交付申請完了の説明があった (資料 1：交付申請書)

(2) 基盤研究(A)の平成 24 年度実施計画に関する確認と検討

平成 24 年度計画について、各担当委員より進捗状況と今後の対応について説明があった。

① 獣医学共用試験委員会の立ち上げ

獣医学共用試験委員会として平成 24 年 3 月 26 日の全国協議会において承認 (資料 2 1-体制図、2-委員会機能と構成)

② 全獣医学系教員の意識調査 (アンケート) (資料 3：看護の報告書)

山下委員が看護の報告書を参考に叩き台を作成することとした。

③ 医学・歯学共用試験並びに薬学共用試験に関する調査と情報収集：

第 6 回獣医学教育改革シンポジウム (獣医学会・岩手) が橋本教授 (北大) の企画で計画されている (資料 8 第 6 回シンポジウム案)

③ 獣医学共用試験の問題作成

既に設置された小委員会で検討することとした。

- 1) CBT 問題作成マニュアルの作成
- 2) CBT 問題作成依頼
- 3) CBT 問題のブラッシュアップ
- 4) CBT 問題の等価性に関する検討
- 5) CBT 問題の新規派生問題の作成
- 6) OSCE 問題の作成

2) 共用試験実施に向けての課題

(1) 今後のスケジュール

スケジュール案 (資料 9) に沿って、1 年間の流れについて検討し、一部修正の上、これを承認した (添付修正案 2)。

(2) 共用試験の検証システムの導入：杉浦委員を担当者とする事とした。

(3) 共用試験実施概要の作成 (平成 25 年度トライアルに向けて)

トライアル実施委員会において、共用試験実施概要を 9 月開催予定の全国大学獣医学関係代表者会議までに取りまとめることとした。同委員会では、共用試験の第 1 回トライアルの実施時期・実施

環境についても、東大等を候補に実施することで検討を進めることとした。

(4) 大学からの共用試験に参加する意志の確認

文科省の調査協力者会議の提言及び全国大学獣医学関係代表者会議の動向より、共用試験については獣医系大学の総意として実施する方向で進んでいることから、問題作成等にあたり各大学に対し特別な参加意志確認を行わないこととした。なお、共用試験関連の機構設立の際には意志確認が必要であることが確認された。

(4) 共用試験に関わる規則の制度化

結果の取扱い、不正防止策、罰則規定等について尾崎先生が担当し案作りを進めることとした。

(5) 獣医学共用試験機構の設置

尾崎委員が担当して案作りを進めることとした。

(6) その他

具体的な問題について、医学機構・福田先生を訪問し、見学とレクチャーを受けることが提案された。小委員会で質問事項を纏め、6月中旬以降を目処に日程調整をすることとした。

3) 小委員会からの報告と今後の進め方について

① vetCBT 小委員会 杉山 (岐阜大)・稲葉 (北大)・杉浦 (東大)

資料を使って、問題精選作業工程についての説明があり、詳細を検討した。

資料 4-1 CBT 問題精選作業工程図-全体像案

資料 4-2 CBT 問題精選作業工程図-評価結果の取扱い案

資料 4-3 CBT 問題精選作業工程図-画面イメージ案

資料 4-4 CBT 問題精選作業工程図-工程具体案

② vetCBT 問題内容検討部会 杉山 (岐阜大)・稲葉 (北大)

③ vetCBT 問題フォーマット・マニュアル (FM) 小委員会 浅井 (麻布大)・遠藤 (酪農大)

4つの資料について検討した。16大学代表者を通して各大学において説明することとした。

資料 5-1 CBT の機密性に関する取り扱い

資料 5-2 獣医学共用試験とは

資料 5-3 CBT 問題作成マニュアル

資料 5-4 CBT 問題作成例 120406

④ vetOSCE 準備小委員会 北川 (岐阜大)・鷲巢 (日獣大)

北川委員から、これまでに実施された2回の委員会で検討された事項について説明があった。現在、担当を決めて、それぞれの項目について検討しているとの報告があった。

資料 6-1 第1回 vetOSCE 準備委員会議事録案

資料 6-2 第2回 vetOSCE 準備委員会議事録案

⑤ トライアル実施小委員会 高井 (北里大) 副・山下 (酪農大)

⑥ 広報小委員会 澁谷 (鳥取大) 副・遠藤 (酪農大) 副・堀 (東大) 北村 (鳥取大)

澁谷委員から、立ち上げたHPについて、機構の名称は、vet-CAT (common achievement test) とすること等の説明があった。今回の会議の議事録、資料についても、今後HPにアップして保存することとなった。(資料7. 共用試験HP)

3) その他

(1) 次回の会議予定：6月中旬を予定することとした。

(2) 16大学の代表者に、大学代表者会議の委員2名の再確認と資料10CBT入力者登録票を配布し、5月中旬に各大学における全教員の登録者リストの作成を依頼することとした。

(3) 本日の会議資料について、纏まり次第、16大学代表者会議の委員に配付することとした。

(4) vetOSCE 準備小委員会より第154回日本獣医学会における関連シンポジウムでvetOSCEに関する説明を行うとの紹介があった。vetCBT試験についても説明する必要があるのではないかとの意見が出され、委員長とシンポジウム責任者の橋本教授(北大)との間で調整を図ることとした。

平成 24 年度 第 2 回獣医学共用試験委員会議事録（案）

日 時：平成 24 年 8 月 14 日（火）13:30～19:00

場 所：東京大学農学部 3 号館 105 号室（会議室）

出席者：

酪農学園大学：山下和人教授	北海道大学：稲葉睦教授
北里大学：高井伸二教授	岐阜大学：北川均教授
岐阜大学：杉山誠教授	酪農学園大学：遠藤大二教授
麻布大学：浅井史敏教授	東京大学：尾崎博教授
東京大学：杉浦教授	
オブザーバー（株）ジンジャーアップ 松本博希氏（開発部グループリーダー）	

報告事項

- 交通事情（大雨のため、東海道新幹線が運転遅延）で委員の到着が遅れ、出席予定者 9 名全員が揃ってから、30 分遅れで会議を開始した。
- ジンジャーアップ・松本氏に関連する問題精選システムに関する意見交換を行い、来週水曜日（8 月 22 日）頃までに、精選システムが運用可能となるように、松本氏に依頼した。
- 第 1 回獣医学共用委員会議事録案（資料 1）を承認した。

審議事項

1. 獣医学共用試験の基本的考え方の確認（資料 2-1～5）

共用試験制度に関する基本的な考え方について、関係資料により確認した。共用試験の理解醸成のために、Q&A の作成を杉山委員に依頼した。中央教育審議会大学部会（第 108 回）大学教育部会（第 20 回）（平成 24 年 7 月 24 日開催）において、専門教育課・内藤課長から獣医学教育における質保証の取り組みに関する説明があったとの報告が尾崎委員よりあった。その中で、モデル・コア・カリキュラムの策定による教育内容・方法の改善促進、大学間連携による教育体制の充実、第三者評価に加え、参加型臨床実習前の学生評価に共用試験の導入について説明されたことが強調された。共用試験に関する理解醸成と啓蒙のために、基本的な考え方についての資料を充実させ、HP 等を通して、獣医学教育関係者のみならず、参加型実習教育を支える現場獣医師に対しても分かりやすく広報することとした。

2. 平成 24 年度（秋）全国大学獣医学関係代表者協議会

平成 24 年 9 月 13 日の全国獣医系大学代表者協議会において、共用試験委員会の活動状況を報告するよう依頼があった。最初に高井委員長が全体像を説明し、小委員会の経過報告・審議事項については各責任者（杉山・浅井・北川・高井・渋谷）が説明することとした。このため、今回の資料を一部修正の上、報告用に取りまとめることとした。

3. 各会議・委員会の経過報告

1) 共用試験委員会、獣医学共用試験大学代表者会議（資料 3）

委員長より、各大学・私大協からの依頼にしたがい、下記のように獣医学共用試験大学代表者を変更したとの報告があった。

東大：尾崎先生→桑原先生

日大：鎌田先生・上地先生→上地先生・森友先生・松本先生

北里大：高井先生→宝達先生

麻布大：浅井先生・藤井先生→土屋先生・村上先生

vet-CBT 小委員会の IT に関する機能を強化するため、遠藤委員（酪農大）の同委員の追加が承認された。vet-CBT 問題フォーマットマニュアル（FM）小委員会の IT 関連実務者（16 大学）とトライアル実施小委員会の実務委員（16 大学）を同じとすることについて話題提供があり、小委員会の名称も含めて今後検討することとした。

2) vetCBT 問題 FM 小委員会（資料 4）

浅井委員から第一回問題作成作業の結果、7720 題が作成されたとの報告があった。大学別・科目別出題数の詳細データについて、次回以降の依頼のための参考資料とすることとした。

4) vetCBT 小委員会 (資料 5)

杉山委員より vet-CBT 問題の精選・修正作業に関して、精選システムの開発が遅れているため、計画より遅れているとの報告があった。また、実際に問題の精選作業を行う vetCBT 問題内容検討部会のうち臨床 B の科目委員選出が滞っているとの報告があり、対応について検討された。望月委員が多忙であることが原因と考えられることから、責任者を山下委員 (酪農大) に交代する方向で早急に検討を進めることとした。

5) vetOSCE 準備小委員会 (当日配布)

北川委員から、これまでの経過報告が資料を用いて説明された。小委員会は 4 月から 2 回開催し、メール会議で随時検討しているとの報告があった。

6) トライアル実施小委員会 (資料・アンケート調査)

高井委員長より、これまでの経過報告があった。本小委員会として各大学から IT 環境整備の委員をお願いする予定である。一方で、vetCBT 問題 FM 小委員会の各大学で選出予定の委員と任務が重複していると考えられ、それについて今後検討することとした。

科研費の本年度事業計画となっている共用試験アンケート調査の原案が提示され、早急に検討することとした。

7) 広報小委員会

渋谷委員が欠席のため、杉山委員がこれまでの概要を説明した。獣医学共用試験の HP に関する意見・提案と今後掲載すべき内容についての検討依頼があった。

8) 獣医学教育モデル・コア・カリキュラム委員会 (資料 3-8)

共用試験に関連して、共通テキスト編集時に生じるモデル・コア・カリキュラムに関する要望について尾崎委員より紹介があった。これまでに 1) 到達目標の順番の変更、2) 文言の修正、3) 到達目標の追加の要望があり、1) と 2) は可能であるが、3) の追加は認められないとの説明があった。ただし、コアではないとの注釈を入れて、追加到達目標を教科書に記述することは可能であり、改訂の際の参考とするとの意向が示された。

4. 今後の検討事項

1) 獣医学共用試験

a. トライアル及び本試験実施までのスケジュール (資料 6)

資料に沿って杉山委員から、トライアル試験及び本試験実施までの日程案の説明があり、細かな日程については臨機応変に対応する必要性を念頭に、概ね了承した。

b. 運営体制の確立 (機構の設立) (資料 4-1-b)

杉浦委員から、平成 28 年 3 月 (平成 27 年度) に一般社団法人として獣医学共用試験実施評価機構 (仮称) を立ち上げ、次のステップで、文科省・公益法人へと変更を予定しているとの説明があった。初年度予算額について、資料により説明があった。

c. 大学負担金及び受験料の設定 (資料 7-1)

受験料については、様々な要望と学生の経済状況を勘案し、2 万円以内に設定するよう努力することとした。大学会費は 20 万から 50 万円とすることで、収入額の確保などに関する議論を行った。事業費などで不透明な点も多くあり、継続検討課題とした。

d. 実施環境の整備 (トライアル及び本試験、サーバ、端末等) (資料 8、資料 4-2-b)

尾崎委員より資料により CBT 実施に伴う設備・装置の比較に関する説明があった。さらに、遠藤委員から、低コスト・高安定の実施形式に関する提案があった。専用 PC 室、ノート型 PC、タブレット型 PC の 3 種の比較があり、総合的にはタブレット型 PC (iPad など) が価格、セキュリティー、波及効果などの面から優れており、これを利用することを決定した。大阪府大からの実施環境に関する問い合わせについては遠藤委員が対応することとした。

e. 実施日程及び追試験制度 (資料 9)

標記について検討し、実施日程は 4 年後期末及び 5 年前期末を想定しているが、詳細な実施日程については、16 大学の全国協議会で調整する必要があるとの結論となった。追試験及び再試験をそれぞれ 1 回実施する方向で進めることとなった。

f. 試験結果の取扱い（判定基準等）

資料により先行する分野での基準点の設定について説明があった。これらを参考に、CBT 試験は 60%以上で合格、OSCE は 4 段階（A～D）で D 評価があれば不合格、C 評価が半数以上でも不合格とする方向で検討を進めることとした。

g. その他

2) vetCBT（当日配布）

a. 第 3 回トライアル試験までのスケジュール

杉山委員から当日配布資料を用いてスケジュール案の説明があった。

b. 問題精選システムの確立（当日資料提示）

遠藤委員より精選システムの開発状況について説明があり、マニュアルの作成とともに近日中に稼働する目途が立ったとの報告があった。

d. 問題検証システムの確立（尾崎委員資料 4-1-f）

杉浦委員より、項目反応理論を用いた CBT 問題の検証に関する説明があった。検証のためには、トライアルの回数、学生数、出題数などについて勘案する必要があるとの説明がなされた。例えば、出題は医学部ではランダム方式であるが、獣医学では問題評価の点からも難しく、薬学のような問題をセットで準備することが妥当ではないかとの意見が述べられた。精度についても、1 問あたりの回答者数が少ないので、医学部のようにはならないことが予想されるとのことであった。重要事項であるので、引き続き検討を進めることとした。B

e. 試験実施の具体的方法（問題数、試験時間等）

先行する分野の共用試験を参考に、CBT は問題数 300 問、試験時間 6 時間で実施する方向で進めることとした。

f. 問題データの維持管理

遠藤委員から、CBT 問題データの維持管理に関する説明があった。重要事項であることから、今後も継続で検討することとした。

h. 各トライアル試験（vetCBT）の目的及び実施方法

今回提案されたスケジュール案に沿って実施することで、準備に入ることとした。

i. コアカリ改訂への対応

コアカリの 4 年後の改訂に向けて、CBT 問題に関しても検討を進めることとした。

3) vetOSCE

（当日配布）

a. 具体的内容

北川委員より、これまでに小委員会で検討された具体的な内容について配布資料をもとにして、説明があった。医療面接を核として、5つのステーションでの試験を検討している報告に対して、実施可能な範囲に縮小すべきではとの意見が交わされた。内容については、今後もさらに小委員会で検討するよう依頼した。

c. 科学研究費申請

OSCE を実施するためには、各種シミュレーターの開発が不可欠であり、この費用は科研費などを利用したいとの提案があった。これに対して、科研費に相応しい内容かとの疑問符もあったが、さらに、文科省、私大協、あらゆる方策を検討することとした。科研費の場合は、遅くとも、9 月の全国獣医学系大学代表者会議でお願いする必要があるので、早急に結論づけることとした。

例「科研費・基盤研究 B 獣医学臨床教育用スキルズラボの開発に関する研究」

d. トライアル試験と必要な環境整備

トライアル実施小委員会と共同で環境整備に関する検討を進めることとした。

資料一覧

- 資料 1：第 1 回共用試験委員会議事録案
- 資料 2-1：基本的な考え方
- 資料 2-2：共用試験 Q&A
- 資料 2-3：共用試験について（池本学長）
- 資料 2-4：農水省：獣医師法 17 条の適用について（抜粋）
- 資料 2-5：第 108 回中央教育審議会大学分科会資料
- 資料 3-1：獣医学共用試験組織体制
- 資料 3-2：獣医学共用試験関連組織名簿（大学別）
- 資料 3-3：要望書（私立獣医科大学協会）
- 資料 4：各大学別問題作成数
- 資料 5：vetCBT 問題内容検討部会委員名簿
- 資料 6：共用試験実施までのスケジュール案
- 資料 7-1：共用試験先行分野における実施状況の比較
- 資料 7-2：機構の約款（案）
- 資料 7-3：各種規約案
- 資料 8-1：大阪府大からのメール
- 資料 8-2：低コスト・高安定の実施形式の提案

当日配付資料

- 資料 3-8：共通テキスト編集時に生じるマイナーチェンジの要望について
- 資料 4-1-b：一般社団法人 獣医系大学間共用試験実施評価機構 定款（案）
共用試験初年度予算額（案）
- 資料 4-2-b：CBT 実施に伴う設備・装置の比較
- 資料 4-1-f：項目反応理論を用いた共用試験 CBT
- 資料・アンケート調査：参加型臨床実習における実習学生の質保証を目的とした獣医学共用
試験の開発研究のためのアンケート調査
- 資料：vetCBT 小委員会関連資料
- 資料：vetOSCE 準備小委員会関連資料

【中央教育審議会大学分科会(第108回)・大学教育部会(第20回)】

1. 日 時:平成24年7月24日(火)14:30～17:00
2. 場 所:文部科学省旧庁舎6階 第二講堂
3. 議 題:(1)中長期的な大学教育の在り方について
(2)その他

同会議において、分野別質保証の取組として、技術者教育・獣医学教育について専門教育課・内藤課長から説明がありました。
(次ページはその要約)

■獣医学教育における質保証の取組について

これまでの経緯

●文部科学省は、「獣医学教育の改善・充実に関する調査研究協力者会議」を平成20年11月に設置し、平成23年3月に、高度な実践力を有する獣医師の養成・国際水準の獣医学教育の実現に向けて、以下の教育改革の方向性を提言。

- ・モデル・コア・カリキュラムの策定など教育内容・方法の改善促進
- ・共同学部・学科の設置や大学間連携の促進になど教育体制の充実
- ・分野別第三者評価や診療行為に参加する学生を事前に評価する共用試験の導入の促進

(参考:モデル・コア・カリキュラムの主な内容)

- ①獣医学生が卒業時まで身につけるべき必須の能力に関する到達目標を明示。
- ②獣医学専門教育課程6年間で学修すべき2/3程度の内容を示す。
- ③近年の獣医学の進歩や社会的ニーズを考慮して講義科目51科目、実習科目19科目により構成。
- ④科目名は例示であり、また単位数も大学が独自に割り振る。
- ⑤共用試験の出題基準、大学の横断的・分野別評価の基準として使用できる。

現在の状況

●この提言をもとに、各大学・関係団体において教育改善の取組が進められているが、教育改革の進捗状況のフォローアップ、獣医師の活動分野等の偏在などに対応するため、平成24年3月に、改めて「獣医学教育の改善・充実に関する調査研究協力者会議」を立ち上げ、以下の論点について検討を進めている。

(主な論点)

- ①教育改革の進捗状況のフォローアップと今後の推進方策
- ②公務員・産業動物分野の獣医師の育成に向けた今後の獣医師養成の在り方
(入学定員の在り方を含む)
- ③獣医学分野における教育者・研究者養成の在り方

※ これまで、教育改革の進捗状況に関するフォローアップ、教育の実施状況についての調査を行ったところ。

平成 24 年 6 月 1 日

獣医学共用試験制度に関する基本的な考え方

獣医学共用試験委員会

1. 獣医学共用試験制度は、参加型臨床実習実施にあたり前提となる学生個人の質を担保することを目的とします。
2. 学生個人の質の確保と保証は所属大学の責任であり、獣医学共用試験制度は各大学がその責任を果たすため共通で利用する評価試験です。
3. 獣医学共用試験制度は獣医学教育の質保証を目指した大学および教員の自発的活動であり、国家資格である獣医師を養成する大学が果たすべき社会に対する責任の一つと位置づけます。ⁱ
4. 獣医学共用試験制度へは各大学の意志により、大学単位で参加します。
5. 共同運用の精神から、獣医学共用試験制度に対し各大学はその規模（教員組織）に見合った貢献が期待されます。各大学の規模については、現在文科省がまとめている調査結果を基に算定します。
6. 参加大学は準備期間を含む平成 24 年度より獣医学共用試験制度に関する活動を開始します。1 年以上遅れて参加を希望する大学にあっては、参加大学のそれまでの活動と同等と認められる貢献をすることが参加の前提と致します。

ⁱ 獣医学共用試験を獣医学教育改革の4本柱の1つとして推進することを明記した文部科学省協力者会議の「意見とりまとめ」は、中央教育審議会において報告・承認されており、国の政策として位置づけられています。

獣医学共用試験 Q & A

(ホームページ : http://vet_cat.umin.jp/)

1. 獣医学共用試験の目的と基本的考え方について

Q1 獣医学共用試験とは何ですか？

A1 獣医学共用試験は、獣医学教育課程（6年制）の学生が参加型臨床実習を始める前に受ける試験です。全国の獣医学教育を受けている学生が共通で利用する評価試験となります。共に用いることから共用試験と呼ばれ、医学・歯学では平成 17 年度から、薬学では平成 22 年度から実施されています。

Q2 獣医学共用試験はなぜ必要なのですか？

A2 獣医師の資格がない学生が動物病院で動物（患者）に接する場合には、必要不可欠な知識・技能・態度が備わっていることを動物所有者（飼育者）に示し、診療に参加することに同意してもらわなければなりません。このため、診療に参加する学生の知識・技能・態度のレベルが一定水準以上であることを保証する必要があります。

獣医学共用試験は、獣医学教育を実施している大学が、実習に臨む学生に必要な最小限の知識・技能・態度の到達レベルを公平かつ厳正に評価し、その質を動物所有者（飼育者）と社会に保証するために実施します。

Q3 獣医学共用試験では、どのような試験が行われますか？

A3 獣医学共用試験は、「知識および問題解決能力を評価する客観試験（vetCBT）」と、「技能・態度を評価する客観的臨床能力試験（vetOSCE）」に分けられます。概要は以下の通りです。

vetCBT はコンピュータを用いた試験（Computer-Based Testing）です。多肢選択問題が学生ごとにランダムに出題され、獣医学生として参加型臨床実習を受講する前に最低限必要な知識が問われます。普段の学習をしっかりとっておけば、特別な準備をする必要のないレベルの問題が出題されます。

vetOSCE（Objective Structured Clinical Examination）は、基本的な臨床技能および態度を客観的に評価するために実施されます。いくつかのステーション（診察室）が準備され、受験生はそれを順に回って課題表に示された項目について定められた時間内に回答していきます。

Q4 獣医学共用試験はどこが責任母体となって実施するのですか？

A4 全国の獣医学教育関係者で組織される全国獣医系大学代表者会議のもとに、獣医学共用試験

を実施するための検討を行う獣医学共用試験委員会が設置されました。現在は、本委員会が獣医学共用試験実施の責任を負っています。本格的な実施の1年前までには、全国獣医系大学が共同で運用する獣医学共用試験実施評価機構（仮称）を設置し、機構を責任母体とした実施運営を構想しています。

Q5 獣医学共用試験と獣医師国家試験の違いは何ですか？

A5 獣医師国家試験は、国家資格である獣医師の免許を取得するための試験です。農林水産省が管轄し、獣医師法第16条第2項に基づいて行われます。受験資格は、獣医学の正規の課程を修めた者に与えられます。

一方、獣医学共用試験は、獣医学教育の必須科目を定めたモデル・コア・カリキュラムの参加型臨床実習を受けるにあたり、受講に相応しい学生かどうかを評価するために実施されます。学生の保証そのものは各大学が責任を負いますが、より客観性を高めるため、大学関係者が運用する共通試験（獣医学共用試験）を利用する、というものです。

卒業後の獣医師の質保証は国家試験が、在学中の学生の質保証は大学が担うという点をご理解頂ければと思います。

Q6 獣医学共用試験の検討は誰が行っているのですか？

A6 全国の獣医学教育関係者で組織される全国獣医系大学代表者会議のもとに設置された獣医学共用試験実施委員会が、平成28年度実施に向けて検討を進めています。

Q7 臨床分野に進む予定のない学生が参加型臨床実習を受講する理由は？

A7 平成23年に策定された獣医学モデル・コア・カリキュラム（コアカリ）のなかに「総合参加型臨床実習」が組み込まれました。コアカリには、卒業後の進路に関係なく獣医学を修める者として最低限必要な科目と内容が示されています。したがって、臨床分野に進む予定のない学生も含め全ての獣医学生は、この参加型の臨床実習を履修しなければなりません。なお、臨床分野に進む学生のためには、さらに進んだ高度な内容の参加型臨床教育（アドバンス）が提供される必要があると考えられます。

Q8 獣医学共用試験についての議論が不足しているのではないのでしょうか？

A8 現在進んでいる獣医学教育改革の議論は、全大学からの委員が参加する全国大学獣医学関係代表者協議会及び獣医学教育改革委員会において議論を積み重ねてきました。平成22年以降、獣医学共用試験は常に議題となり、各大学での検討をお願いしてきたところです。さらに、平成23年度に全国4箇所（大阪、東京、札幌、鹿児島）で開催された獣医学教育関係者対象の獣医学教育改革特別シンポジウムでは、話題の中心の一つに共用試験があり、活発な議論がなされました。獣医学会年会で開催された通常教育シンポジウムでも、共用試験は毎回のように取り上げられました（3年間で6回）。

今後、各大学との連絡調整を行う獣医学共用試験大学代表者会議の機能を強化し、さらに共用試験に関して各大学と意思疎通をはかるつもりです。

Q9 参加型臨床実習の具体像がないなかで、共用試験の実施を検討するのはまだ早いのでは？

Q9 コアカリの中で、「総合参加型臨床実習」として実習内容について記載されています。ただし、各大学の実情、環境等が異なるため、ある程度の幅を持たせた内容となっています。今後は、各大学の実習環境を充実・整備させることにより、受講内容のレベルを上げていくことが求められます。コアカリ自身も今後定期的に見直されることになっています。

Q10 共用試験では獣医師法の違法性阻却要件とならないと聞いていますが、どうでしょうか？

A10 平成 22 年 6 月に獣医事審議会計画部会より答申された「獣医学教育における獣医学生の臨床実習の条件整備に関する報告書」では、臨床実習において獣医学生に許容される医療行為の範囲が定められました。その中で、臨床実習の前に各大学において各学生の知識・技能の到達水準に関する評価を行うよう求めています。さらに、同報告書では、先行する医学分野の総合的評価法として共用試験について紹介され、同様な検討を獣医学関係大学に求めています。

国家資格と関係する医学・歯学・薬学において、違法性阻却を目的に共用試験が実施され、社会的認知を受けている事実からすれば、獣医師法においても同様に考えるのは極めて自然です。ただし、学生の質の担保は各大学の責任であり、共用試験による評価だけでなく単位認定等の独自の評価を加えることも考えておかなければなりません。

Q11 獣医学共用試験の結果を進級認定等の他の目的で利用することは可能でしょうか？

A11 獣医学共用試験の目的は、参加型臨床実習のための事前評価を目的としています。原則として、他の目的での本試験の利用は好ましくありません。一方で、参加型臨床実習の受講が進級に影響を与える場合、例えば参加型臨床実習を受講しなければ留年が確定するような場合は、事前評価である共用試験の結果を進級要件にすることは可能と考えています。

Q12 獣医学共用試験のためにカリキュラムを変更しなければならないのはおかしいのでは？

A12 参加型臨床実習を受講するにあたり、学生がどの程度の知識・技能レベルを必要とするかは重要なポイントです。各大学では、同実習実施にあたり、履修要件を検討し、カリキュラムを含めその環境を整備しなければなりません。このために、時にはカリキュラムの改正も必要となります。すなわち、共用試験のためにカリキュラムを変更するのではなく、参加型臨床実習のためにカリキュラムを変更することは、各大学においてあり得ることです。

なお、獣医学教育モデル・コア・カリキュラム委員会において、各大学のカリキュラムも参考しつつ、参加型臨床実習の事前評価として必要な科目及び項目（一般目標、到達目標）について検討され、共用試験の範囲が定められました。

2. 獣医学共用試験制度の管理運営

Q1 獣医学共用試験の管理運営はどこが行うのでしょうか？

A1 トライアル試験については、全国獣医系大学代表者会議のもとに設置された獣医学共用試験委員会が主体となり実施します。平成 28 年度の本格実施の 1 年前までには、全国獣医系大学が共同で運用する獣医学共用試験実施評価機構（仮称）を新たに設置し、この機構が中心となり獣医学共用試験を実施する計画です。

Q2 獣医学共用試験実施に向けての今後の計画を教えてください。

A2 平成 28 年度の本格的実施に向けて段階的にトライアル試験を行い、その結果を検証しながら間違いのない獣医学共用試験制度を構築する計画です。具体的には、vetCBT 及び vetOSCE のトライアル試験を、それぞれ平成 25 年度及び 26 年度から数校の参加により始めます。平成 27 年度には全大学が参加するトライアル試験を実施し、次年度からの本格実施に備える計画です。

トライアル試験には、問題精選という重要な目的もあります。登録された問題を多数の学生に予め解かせることにより、各問題の項目識別率、項目難易度などを項目反応理論（Item Response Theory）により求めます。この手法により試験問題の特性が判明しているプール問題を用い、ランダム出題というやり方で、「異なった時期に、異なった場所で、異なる能力の学生が受験しても、公平な評価を行うことが出来る」ようになります。

Q3 現在、全国獣医学関係大学代表者協議会が中心となって獣医学共用試験実施の検討を進めています。本協議会と設置予定の機構との関係はどのようになるのでしょうか？

A3 設置予定の獣医学共用試験実施評価機構（仮称）は、客観性を高めるため全国獣医学関係大学代表者協議会とは独立した法人格をもつ予定です。はじめは一般法人として発足させ、ゆくゆくは公益法人とすることを考えています。

Q4 獣医学共用試験のため各大学が負担する経費はどのくらいでしょうか？

A4 平成 26 年度のトライアル試験までは、科学研究費（A）（研究代表者：吉川泰弘）で経費を賄う計画です。平成 27 年度以降、参加大学からの会費と受験料により運用する獣医学共用試験実施評価機構（仮称）を発足させます。

なお、医学・歯学の共用試験は（社）医療系大学間共用試験実施評価機構により運用され、各大学の負担は入会金 25 万円に年間会費（医学：1,514 千円、歯学：2,106 千円）を加えたものです。また、薬学の共用試験は NPO 薬学共用試験センターにより運等され、年会費が 50 万円となっています。

これらに対し、獣医学共用試験では、先行分野の情報を参考に IT の最大限の活用を図ることにより、各大学の負担を可能な限り圧縮するつもりです。このためには、獣医学教育関係者全員の協力が必要です。

Q5 獣医学共用試験の受験料はどのくらいでしょうか？

- A5 トライアル試験は、平成 26 年度までは科学研究費で、平成 27 年度は大学の会費で実施しますので、受験料は無料です。平成 28 年度以降の獣医学共用試験の受験料は 1 人 2 万円以内に抑える予定です。なお、医学・歯学及び薬学の共用試験の受験料は、それぞれ 28,000 円及び 25,000 円となっています。

3. 獣医学共用試験 CBT の問題作成

Q1 vetCBT 問題は誰が出題するのでしょうか？

- A1 共用試験に参加するあるいは参加する予定の大学の獣医学教育関係者が出題に当たります。その他に、その専門性から獣医学教育関係者以外の協力をお願いする場合があります。

Q2 コアカリ準拠の教科書が出来ていない科目の問題作成は難しいと思いますが？

- A2 ご指摘の通り、コアカリに準拠した教科書がないなかでの問題作成は難しいと考えられます。これが、開講時期に関係なく迅速な各科目の教科書作成が求められる理由です。コアカリ準拠の教科書作成が遅れている科目については、現在、多くの大学が採用している教科書・参考書を活用することになります。

Q3 自由に出題するとコアカリ全体をカバー出来なくなると思うのですが？

- A3 確かに、第 1 回の問題募集を終えた段階で、科目内及び科目間で問題数の偏りが出来ています。第 2 回問題募集の際には、問題数が少ない科目及び項目について優先的に出題を促す予定です。

Q4 今後も同様に、各教員が問題作成を行うのでしょうか？

- A4 毎年、問題を募集する計画です。これは、出題の偏りを是正したり、不適切な問題を排除し、常に新しい良問を蓄積していくためです。プール問題が一定数以上集まれば、公開することも可能となります。

Q5 「vetCBT 問題の機密性に関する考え方」に、作成者の守秘義務について曖昧に記載されていますが、これで気密性を保つことができるのでしょうか？

- A5 出題された問題は vetCBT 問題内容検討部会で精選あるいは修正され、蓄積問題となります。出題者を匿名として精選・修正作業を進めますので、出題された問題が最終的に採択されたか、どのように修正されたかは分からないこととなります。さらに、vetCBT では、蓄積問題からランダムに 300 題（予定）出題されるため、出題教員レベルではどの問題が出題されるか全く予測できません。

したがって、問題が固定されている国家試験とは異なり、各出題教員に高い機密性を求める必要がありません。ただし、試験制度そのものを脅かすような行為は厳に慎んでいただかなくてはなりません。

学生の良識ある行動についても、教員が指導していかねばなりません。

Q6 臨床科目の各論が CBT 出題の範囲外となっています。参加型臨床実習の参加要件とするためには、各論も必要ではないでしょうか？

A6 参加型臨床実習を受講するにあたり、理想的には、臨床科目各論を含め全ての科目履修後に同実習を受講するのが望ましいと考えています。一方で、全大学のカリキュラムを調べたところ、この理想的条件を整えるためには6年生になってからの同実習を想定しなければならないことが判明しました。この場合、各大学において特色となる独自性の高い教育ができなくなる可能性があります。

そこで、参加型臨床実習に必要な不可欠な範囲を再検討し、実践の場で各論的内容を履修することも想定し、臨床科目の範囲を総論としました。なお、指導を外部に委託する可能性が高い産業動物関連の科目は各論まで範囲となっています。

今後、モデル・コア・カリキュラムの見直しの中で、参加型臨床実習の内容と事前履修科目との連動性について更に検討する必要があります。各大学における教育環境が整備されれば、臨床科目各論を含めることが可能となるかもしれません。

4. 獣医学共用試験の実施

Q1 前ぶれなく獣医学共用試験を実施すると学生に混乱を与えるのではないのでしょうか？

A1 獣医学共用試験は、参加型臨床実習を受講する事前評価として行われます。すなわち、共用試験は獣医学教育の一環として位置づけることが出来ます。したがって、学生便覧、シラバス等を通して、入学時に学生との間で同試験実施が説明されていなければなりません。平成28年度に共用試験を実施するためには、平成25年度入学生に対して同試験について通知する必要があります。4年前の告知をもって共用試験は実施されますので、混乱することはありません。なお、本格実施以前のトライアル試験への参加は任意であり、その試験結果は学生に対して何も影響を及ぼしません。

Q2 各大学で整備すべき IT 環境、設備、備品等はどの様なものですか？

A2 vetCBT については、経費、セキュリティーなどを考慮し、タブレット型 PC を用いて実施する計画です。獣医学教育についても画像診断実習等でタブレット型 PC が活用され始め、さらにコアカリ準拠の教科書についても、電子図書の方向で検討が進められています。比較的安価であるタブレット型 PC は、今後さらに普及が進むと考えられています。このような背景の下、個人所有あるいは貸し出しの同 PC により vetCBT を実施するよう計画を進めています。これにより従来のコンピュータ室のような施設は必要ないこととなります。詳細につきましてはトライアル実施小委員会で検討し、各大学の環境に応じて整備を進めていくこととなります。

vetOSCE については、vetOSCE 小委員会で実施に向けて検討を進めています。現在までのところ、5つの評価項目（医療面接、身体検査-1、身体検査-2、無菌操作、縫合）を構想し

ています。試験内容が均質になるよう、医療系共用試験を参考にシミュレーター等の活用を考えています。

Q3 共用試験の実施時期はいつですか？

A3 4年生後期及び5年前期終了時の2回を計画しています。各大学は、参加型臨床実習の開講時期に合わせてどちらかを選択することができます。vetCBT問題はランダムに学生間で異なる問題が出題され、vetOSCEは態度・技能を問うことから、全国で統一的な日程を設定する必要はありません。したがって、各大学でそれぞれの事情に応じて日程を決めることができます。具体的には、各学期が終了する2月あるいは8月の初旬を考えています。

Q4 追試験あるいは再試験を行うのでしょうか？

A4 病気等のため試験を受けることが出来なかった学生に対しては、追試験を行います。時期としては本試験の約半月後を考えています。不合格と判定された学生に対しては、追試験終了後の日程で、有料で再試験（1回限り）を実施します。

農水省：獣医師法 17 条の適用について

3) 事前の獣医学生の評価

臨床実習において獣医学生が診療行為を行うにあたっては、事前に、実施可能な水準までの技術を修得させておく必要があり、大学においては、臨床実習に入る前の段階で、獣医学生の知識・技能に係る評価の基準を設ける等により、獣医学生が到達すべき水準に達しているかどうかについて判断することが必要である。

なお、医学生では、臨床実習における医行為の考え方を整理してから 14 年を経て、医学系大学の総意として、臨床実習に入る前の段階で、医学生の能力を評価するため、大学間で共通の評価試験（共用試験）を実施し、臨床実習開始前の医学生の総合的な評価を行うこととした。

獣医学教育における同様な制度の導入については、大学間にカリキュラムの違いがあること、実施体制の構築等さまざまな課題があることから、大学が検討を行うことが適当である。

「獣医学教育における獣医学生の臨床実習の条件整備に関する報告書」より抜粋
獣医事審議会計画部会（平成 22 年 6 月 30 日）

CBT 問題の機密性に関する考え方

基本的な考え方：

1. 到達レベルを設定し質保証を行うものですが、「参加型総合臨床実習に進むためにしっかりと勉強してもらうこと」が第一の目的です。
2. 十分に多数の問題の中からランダムに選択して出題するので、入学試験や国家試験で求められるような厳格な機密性は必要としません。
3. ただし、教員はあえて意図的に学生に漏らすような行為を行ってははいけません。

具体的なケース (Q and A)：

Q1：教員が講義や定期試験で使用する問題を登録できますか？

A1：出来ます。ただし、選択肢を「別の(新たな)選択肢と入れ替える」などして「まったく同一の問題とならないように工夫する」などの配慮が必要です。

Q2：国家試験問題(基礎問題)も入れて良いのではないかとおもいますが？

A2： 選択肢を多少入れ替えるなどして CBT 委員会で入力する予定です。

Q3：コアカリ準拠共通テキストの問題も入れて良いのですか？

A3： これも、選択肢を多少入れ替えるなどして入力する予定です(委員会からテキストの著者に依頼します)。

Q4：機密管理で教員に問題が生じた場合はどうなるのですか？

A4： 協議の対象となります。ただし、協議とは機構(設立予定)に参加する大学に科されるものであり、注意喚起、除名など、機構規約に盛り込む予定です。教員自身に対するものは大学が独自に考えることとなります。(詳しくは今後協議します)

Q5：今後、例えば CBT 試験の参考書が出てくる可能性があると思いますが、教員がこれに関与しても良いですか？

A5： コアカリ準拠共通テキスト以外に、CBT に関わる商用的な事業(出版や受験対策)に関わるべきではありません。事業者へ情報を提供するなどの行為があった場合は協議の対象となります。(詳しくは今後、協議します)

Q6：トライアルで学生に解かせた問題内容の漏洩防止について、学生の行為をどの様に管理するのですか？

A6：試験では筆記用具の持ち込みは禁止です。また、意図的に、「集団で問題集をつくる」、「業者へ漏洩する」などの行為も行ってははいけません。このルールを破った、あるいは他の不正行為を犯した学生に対しては各大学が独自に対処しますが、薬学では退学処分も考えているようです。なお、試験を受ける学生から誓約書をとることを検討しています。

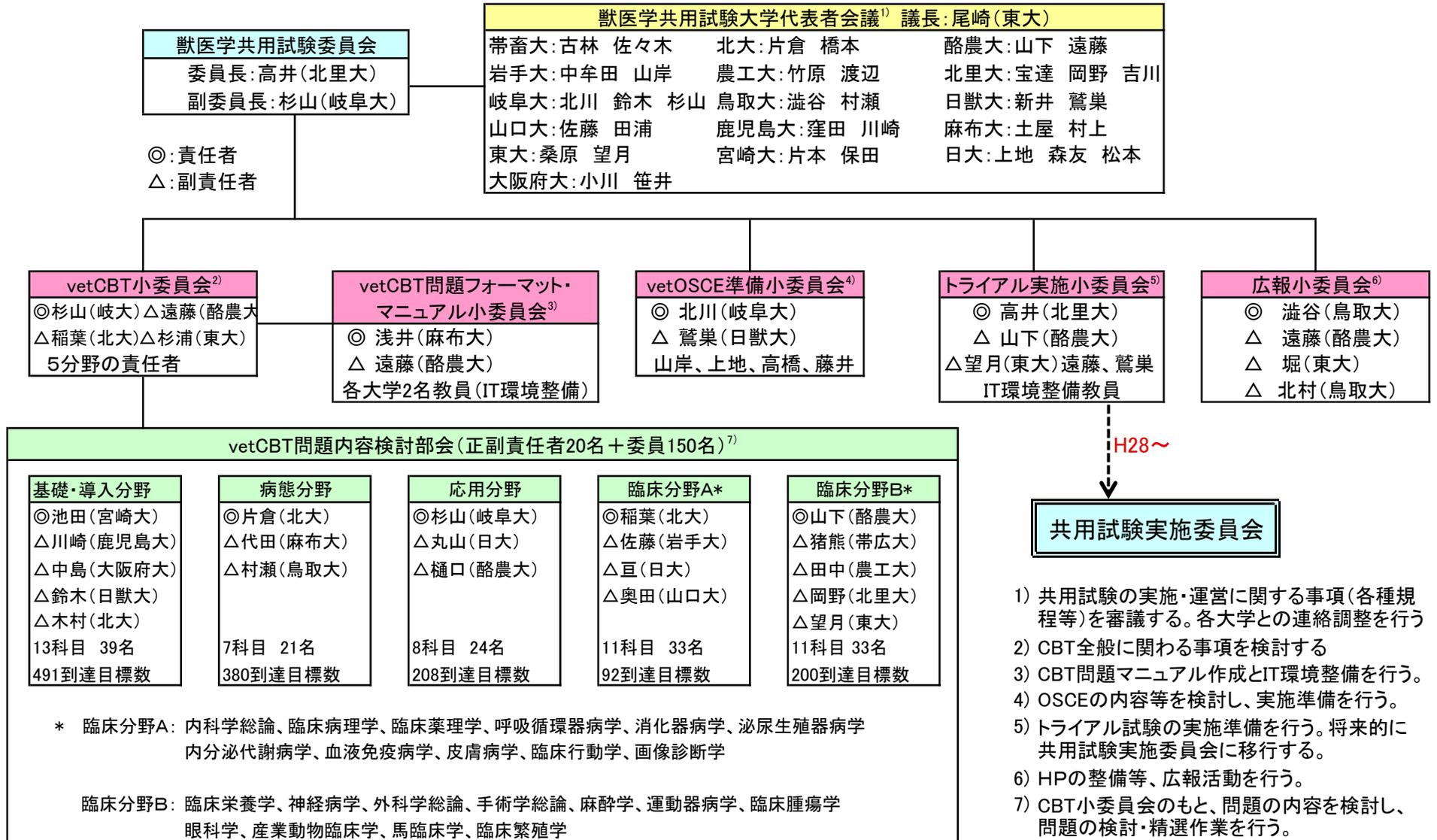
Q7：獣医師国家試験問題作成に関わる人がCBT問題を入力してもよいですか？

A7：出題してもらってかまいません。ただし、国家試験に出題しようとしている問題と同一あるいはきわめて類似した問題を入力することは避けてください。

以上

獣医学共用試験委員会組織体制

(H24.8.23)



獣医学共用試験関連組織名簿v8(H24.8.23)

	共用試験委員会	vetCBT小委員会	vetCBT問題 内容検討部会 (副責任者)	vetCBT問題フォーマット・ マニュアル小委員会	vetOSCE 準備小委員会	トライアル 実施小委員会	広報小委員会	共用試験・大学代表者会議
委員長/ 責任者	高井(北里大)	杉山(岐阜大)		浅井(麻布大)	北川 (岐阜大)	高井 (北里大)	澁谷 (鳥取大)	代表:尾崎(東大)
副・委員長/ 責任者	杉山(岐阜大)	稲葉(岐阜大)		遠藤(酪農大)				
帯畜大			猪熊(臨床B)					古林与志安 佐々木直樹
北大	稲葉		○稲葉(臨床A) ○片倉(病態)	木村(基礎)				片倉 賢 橋本善春
岩手大				佐藤(臨床A)		△山岸		山岸則夫 中牟田信明
東大	尾崎、杉浦、望月、堀	杉浦(問題検証)	望月(臨床B)			△望月	△堀	桑原正貴 望月 学
農工大				田中(臨床B)				竹原一明 渡辺 元
岐阜大	北川		○杉山(応用)					北川 均、鈴木正嗣、杉山 誠
鳥取大	澁谷	北村		村瀬(病態)			△北村	澁谷 泉 村瀬敏之
山口大				奥田(臨床A)				佐藤晃一 田浦保穂
宮崎大			○池田(基礎)					片本 宏 保田昌宏
鹿児島大				川崎(基礎)				川崎安亮 窪田 力
大阪府立大				中島(基礎)		△高橋		小川和重 笹井和美
酪農大	山下	遠藤	○山下(臨床B)	樋口(応用)		△山下・遠藤	△遠藤	山下和人 遠藤大二
北里大				岡野(臨床B)				宝達 勉、岡野昇三、吉川泰弘
麻布大	浅井			代田(病態)		△藤井		土屋 亮 村上 賢
日大				丸山(応用) 亘(臨床A)		△上地		上地正実、森友忠昭、松本 淳
日獣大	鷺巣			鈴木(基礎)		△鷺巣	△鷺巣	鷺巣月美 新井敏郎
備考	各小委員会正副責任者	():担当分野 ○:vetCBT問題内容検討部会責任者		各大学2名(IT関連実務者)	△:副責任者			

共用試験本格実施までのスケジュール計画案

平成 24 年

6 月 5 日

～7 月 14 日 CBT 問題募集 (→7720 題)

9 月中

CBT 問題精選システム説明会 (各大学) = 共用試験説明も兼ねる
 第 1 回説明会 (東京近郊大学) : 問題内容検討部会正副責任者参加
 →第 2 回～各大学での説明会
 (当該大学所属責任者+他大学責任者 1 名による説明)
 (+ 共用試験委員会委員)

10 月～11 月

CBT 問題精選作業
 問題出題及び検証システム確立

平成 25 年度

前期

第 2 回 CBT 問題募集

～前期末

第 2 回 CBT 問題精選作業

後期

第 1 回 CBT トライアル試験 (対象 5 年生、数校希望者)

平成 26 年度

前期

第 3 回 CBT 問題募集

～前期末

第 3 回 CBT 問題精選作業

2 月

第 2 回 CBT トライアル試験 (対象 5 年生、参加表明全校・希望者)
 第 1 回 OSCE トライアル試験 (対象 5 年生、数校希望者)

平成 27 年度 (本格実施と同じスケジュール)

前期

第 4 回 vetCBT 問題募集

～前期末

第 4 回 vetCBT 問題精選作業

～12 月

vetCBT 出題問題の検討

2 月

第 3 回 CBT トライアル試験 (対象 5 年生、参加表明全校・希望者)
 第 2 回 OSCE トライアル試験 (対象 5 年生、参加表明全校希望者)

平成 28 年度 (本格実施)

前期

第 5 回 vetCBT 問題募集

～前期末

第 5 回 vetCBT 問題精選作業

～12 月

第 3 回 vetCBT トライアル試験結果の検証

～12 月

出題問題の検討

2 月

第 1 回共用試験 (対象 4 年生、参加表明校・全員)

	共用試験(CBT/ OSCE)実施	CBT問題作成
平成24年度		
前期		第1回CBT問題募集
後期		第1回CBT問題精選作業
平成25年度		
前期		第2回CBT問題募集 第1回CBTトライアル出題問題作成
後期	第1回CBTトライアル試験(数校)	第2回CBT問題精選作業
平成26年度		
前期		第3回CBT問題募集 第3回CBT問題精選作業 第2回CBTトライアル出題問題作成
後期 2月	第2回CBTトライアル試験(約半数、5年生) 第1回OSCEトライアル試験(数校、5年生)	
平成27年度		
前期		第4回CBT問題募集 第4回CBT問題精選作業 第3回CBTトライアル出題問題作成
後期 2月	第3回CBTトライアル試験(全校、5年生) 第2回OSCEトライアル試験(全校、5年生)	CBTトライアル出題問題作成(追・再試)
平成28年度		
前期		第5回CBT問題募集 第5回CBT問題精選作業 第1回共用試験CBT出題問題作成
後期 2~3月初	第1回共用試験(全校)	

各分野の共用試験に関する比較

資料4-b-1

	医学	歯学	薬学	獣医学
目的	学生が臨床実習を始める前に備えるべき必要最低限の総合的知識及び基本的診療技能と態度を評価。	同左	実務実習を行うに必要かつ十分な基礎的知識や技能・態度が備えられているかどうかを評価し、保証。	学生が参加型臨床実習を始める前に備えるべき必要最低限の総合的知識及び基本的診療技能と態度を評価。
経緯	平成14年 共用試験試行開始 平成17年12月 共用試験正式実施	同左	平成18年4月 薬学共用試験OSCEの試行開始 平成19年1月 CBT試行開始 平成21年12月 薬学共用試験の正式実施	平成25年～27年 獣医学共用試験の試行 平成28年度本格実施(予定)
実施主体	(社)医療系大学間共用試験実施評価機構 (平成17年3月設立)	同左	NPO法人薬学共用試験センター (平成18年10月設立)	獣医学共用試験センター(平成25年度設立 予定)
実施経費	(社)医療系大学間共用試験実施評価機構 平成21年度支出合計額・・・562百万円 (主な収入源:会員大学の年会費(医: 1,514千円、歯:2,106千円)、受験料)	同左	NPO法人薬学共用試験センター 平成21年度支出合計額・・・386百万円 (主な収入源:会員大学の年会費(500千 円)、受験料)	支出:収入見込額は3000万円以下であり、 これに合わせた支出を考える。会員大学の 年会費20～50万円(資料4-c-11による)
受験料	28,000円/人	同左	25,000円/人	20,000円以内/人(資料4-c-11による)
参加大学数	80大学(全大学)	29大学(全大学)	66大学67学部(未参加の7大学は学年進行 中のため受験年次に未到達)	16大学(全大学)
受験者数	平成21年度(前期・後期計) CBT : 7,782人 OSCE: 7,773人	平成21年度(前期・後期計) CBT : 2,421人 OSCE: 2,145人	平成21年度(本試験・追試験) CBT : 9,402人 OSCE: 9,412人	入学定員930名 実質1000名
試験実施時期	・学生が臨床実習を開始する前までに実施 ・年2回実施(前期開始の場合:12～3月の 間、後期開始の場合:6～9月の間で各 大学が設定)	同左	・5年次での実務実習を開始する前年度(4年 次)に実施 ・本試験は12～1月、追・再試験は2/20～ 3/20の間で各大学が設定	・学生が臨床実習を開始する前までに実施 ・年2回実施(前期開始の場合:2～3月の 間、後期開始の場合:8～9月の間で各大学 が設定)
試験内容	・CBT(コンピュータを用いた客観試験) 320問(単純5肢択一240問、多選択肢連 問40問、順次解答連問40問)、6時間 (出題項目) 基本事項 (4.2%) 医学一般(20.8%) 人体各器官の正常構造と機能、病態、 診断、治療(37.5%) 全身におよぶ生理的変化、病態、診 断、治療(20.8%) 診療の基本(8.3%) 医学・医療と社会(8.3%) ・OSCE(客観的臨床能力試験) 医療面接(10分) 頭頸部診察(5分) 胸部診察(5分) 腹部診察(5分) 神経診察(5分) 外科的基本手技・救急(5分)	・CBT(コンピュータを用いた客観試験) 320問(5肢択一240問、多選択肢連問20問、 順次解答連問60問)、6時間 (出題項目) 医の原則 歯科医師としての基本的な態度 社会と歯学 (以上計10%) 生命科学(25%) 歯科主体材料・歯科材料(5%) 臨床歯学教育(60%) ・OSCE(客観的臨床能力試験) 初診面接(5分) 基本的診察及び検査能力(5分) 基本的技能(5分) 説明・指導(5分) 基本的臨床技能(Ⅰ)(5分) 基本的臨床技能(Ⅱ)(5分)	・CBT(コンピュータを用いた客観試験) 310問(5肢択一)、6時間 (出題分野) ヒューマンズ・インタラクション(10問) 物理系薬学(30問) 化学系薬学(40問) 生物系薬学(35問) 健康と環境(40問) 薬と疾病(105問) 薬学と社会(20問) 実務実習事前学習(30問) ・OSCE(客観的臨床能力試験) 5領域6課題について実地試験。1課題につ き、閲覧時間1～2分、実技時間5分 (領域) 患者・来局者対応 薬剤の調製(1)(2) 調剤鑑査 無菌操作の実践 情報の提供	CBT(タブレットPCを用いた客観試験) 300問(5肢択一)、6時間 ・OSCE(客観的臨床能力試験) 5ステーションで実地試験
合格基準	各大学における臨床実習での学生指導 の在り方を考慮して各大学が責任をもつ て設定する (学生個人のCBT及びOSCEの成績結果 と各大学で実施する個別の評価結果とを 組み合わせることによって臨床実習開始 前の総合的な評価が行われる)	同左	CBT: 正答率60%以上 (平成21年度到達率:99.32%) OSCE: 課題ごとに、細目評価で評価者2名 の平均点が70%以上、かつ概略評価で評価 者2名の合計点が5以上で合格 (平成21年度到達率:99.99%) (薬学共用試験合格をもって学生の基礎的 知識や技能・態度が基準に到達していること を保証)	CBT: 正答60%以上 OSCE 4段階評価(ABCD) D評価は不合格 C評価が3つ以上でも不合格 (曖昧な部分を削除した)

※ 看護分野については、科学研究費補助金により、平成20年度から平成22年度の期間で、共用試験(CBT)の研究が行われている。

一般社団法人 獣医系大学間共用試験実施評価機構 定款 (案)

第1章 総則

(名称)

第1条 この法人は、##法人獣医系大学間共用試験実施評価機構という。

(事務所)

第2条 この法人は、事務所を#####に置く。

第2章 目的及び事業

(目的)

第4条 この法人は、我が国における良質な獣医師の育成を図るため、獣医系大学間の共用試験に関する事業を行うとともに獣医系大学等における教育評価の充実に関する事業・学術研究・啓蒙・普及活動を行い、もって我が国獣医療の向上と福祉の増進に寄与することを目的とする。

(事業)

第5条 この法人は、前条の目的を達成するために次の事業を行う。

- 一 獣医系の大学等における教育における学生の学習到達度を判定するための共通の評価試験（以下「共用試験」という。）の実施及び評価に関すること
- 二 共用試験の問題、課題及び成績等の管理に関すること
- 三 共用試験の内容及び方法の改善を図るための組織的な研究及び研修に関すること
- 四 獣医系の大学等における教育内容とその評価の発展充実を図るための学術研究活動・研修事業・啓蒙・普及活動等の実施に関すること
- 五 獣医系の大学等における教育内容とその評価の充実発展を図るための資料収集及び公開・提供等に関すること
- 六 その他、本法人の目的を達成するために必要な事業

第3章 会員

(種別)

第6条 この法人の会員は、次のとおりとする。

- 一 正会員 この法人の目的に賛同して入会した、獣医系の人材育成および教育に係る大学等の学部・学科・専攻系等の専門領域、又はこの法人がこれに準ずると認める者（団体）

二 賛助会員 この法人の目的に賛同して入会した，主に獣医師育成の教育に係わる高等教育機関および団体またはこの法人の事業を援助する法人または個人

(入会)

第7条 正会員になろうとする者(団体)は，入会申込書および関係書類を理事長に提出し，理事会の承認を受けなければならない。

(入会金及び会費)

第8条 この法人の入会金及び会費は総会の議決をもって別に定める。

2 特別の必要があるときは，理事会の議決を経て，臨時会費を徴収することができる。

(資格の喪失)

第9条 会員は，次の事由によってその資格を喪失する。

- 一 退会したとき。
- 二 正会員が獣医系の人材育成等に関する教育に係る大学の学部・学科・専攻系等を設置しなくなったとき。
- 三 法人である会員が解散したとき。
- 四 除名されたとき。

(退会)

第10条 会員が退会しようとするときは，理由を付して退会届を理事長に提出しなければならない。

(除名)

第11条 会員が次の各号の一に該当するときは，総会の議決を経て，理事長が除名することができる。

- 一 この法人の名誉を傷つけ，又はこの法人の目的に違反する行為があったとき。
- 二 この法人の会員としての義務に違反したとき。
- 三 正当な理由なく会費を1年以上滞納したとき。

(抛出金品の不返還)

第12条 既納の入会金，会費及びその他の抛出金品は，いかなる事由があっても返還しない。

第4章 役員

(役員)

第13条 この法人には、次の役員を置く。

- 一 理事#名以上#名以内（うち、理事長1名、副理事長#名以内、常務理事#名）
- 二 監事#名

(役員を選任)

第14条 理事及び監事は、総会で選任し、理事は、互選で理事長、副理事長、常務理事並びに理事を定める。

2 特定の理事とその親族その他特別の関係にある者の合計数は、理事現在数の3分の1を超えてはならない。

3 理事及び監事は、相互に兼ねることができない。

(理事の職務)

第15条 理事長は、この法人の業務を総理し、この法人を代表する。

2 理事長に事故があるとき、又は理事長が欠けたときは、あらかじめ理事長が指名した順序により副理事長がその職務を代理し、又はその職務を行う。

3 常務理事は、理事長を補佐し、理事会の議決に基づき、日常の事務に従事し、総会の議決した事項を処理する。

4 理事は、理事会を組織して、この定款に定めるもののほか、この法人の総会の権限に属せしめられた事項以外の事項を議決し、執行する。

(監事の職務)

第16条 監事は、この法人の業務及び財産に関し、次の各号に規定する職務を行う。

- 一 法人の財産の状況を監査すること。
- 二 理事の業務執行の状況を監査すること。
- 三 財産の状況又は業務の執行について不正の事実を発見したときはこれを理事会、総会又は文部科学大臣に報告すること。
- 四 前号の報告をするため必要があるときは、理事会又は総会を招集すること。

(役員任期)

第17条 この法人の役員任期は、2年とし、再任を妨げない。

2 補欠又は増員により選任された役員任期は、前任者又は現任者の残任期間とする。

3 役員は、その任期満了後でも後任者が就任するまでは、なおその職務を行う。

(役員解任)

第18条 役員が次の各号の一に該当するときは、理事現在数及び正会員現在数の各々の

4分の3以上の議決により理事長がこれを解任することができる。

この場合、理事会及び総会で議決する前にその役員に弁明の機会を与えなければならない。

- 一 心身の故障のため職務の執行に堪えないと認められるとき。
- 二 職務上の義務違反その他役員たるにふさわしくない行為があると認められるとき。

(役員報酬)

第19条 役員は無給とする。ただし、常勤の役員は総会の議決を経て有給とすることができる。

- 2 役員報酬は、理事会の議決を経て理事長が別に定める。

第5章 会議

(理事会の招集等)

第20条 理事会は、毎年2回理事長が招集する。ただし、理事長が必要と認めたとき、又は理事現在数の3分の1以上から会議に付議すべき事項を示して理事会の招集を請求されたときは、理事長は、その請求があった日から30日以内に臨時理事会を招集しなければならない。

- 2 理事会の議長は、理事長とする。

(理事会の定足数等)

第21条 理事会は、理事現在数の3分の2以上の者が出席しなければ、議事を開き議決することができない。ただし、当該議事につき書面をもってあらかじめ意思を表示した者は、出席者と見なす。

- 2 理事会の議事は、この定款に別段の定めがある場合を除くほか、出席理事の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(総会の構成)

第22条 総会は、第6条第1号の正会員をもって組織する。

(総会の招集)

第23条 通常総会は、毎年1回理事長が招集する。

- 2 臨時総会は、理事会が必要と認めたとき、理事長が招集する。
- 3 前項のほか、正会員現在数の5分の1以上から会議に付議すべき事項を示して総会の招集を請求されたときは、理事長は、その請求があった日から30日以内に臨時総会を招集しなければならない。
- 4 総会の招集は、少なくとも7日以前に、その会議に付議すべき事項、日時及び場所を

記載した書面をもって通知する。

(総会の議長)

第24条 総会の議長は、会議のつど、出席正会員の互選で定める。

(総会の議決事項)

第25条 総会は、この定款に定めるもののほか、次の事項を議決する。

- 一 事業計画及び収支予算についての事項
- 二 事業報告及び収支決算についての事項
- 三 正味財産増減計算書、財産目録及び貸借対照表についての事項
- 四 その他この法人の業務に関する重要事項で理事会において必要と認めるもの

(総会の定足数等)

第26条 総会は、正会員現在数の過半数以上の者が出席しなければ、議事を開き議決することができない。ただし、当該議事につき書面をもってあらかじめ意思を表示した者及び他の正会員を代理人として表決を委任した者は、出席者とみなす。

2 総会の議事は、この定款に別段の定めがある場合を除くほか、正会員である出席者の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(会員への通知)

第27条 総会の議事の要領及び議決した事項は、全会員に通知する。

(議事録)

第28条 すべての会議には、議事録を作成し、議長及び当該会議において選任された出席者の代表2名以上が署名押印の上、これを保存する。

第6章 資産及び会計

(資産の構成)

第29条 この法人の資産は、次のとおりとする。

- 一 設立当初の財産目録に記載された財産
- 二 入会金及び会費
- 三 資産から生じる収入
- 四 事業に伴う収入
- 五 寄附金品
- 六 その他の収入

(資産の種別)

第30条 この法人の資産を分けて、基本財産と運用財産の2種とする。

- 2 基本財産は、次に掲げるものをもって構成する。
 - 一 設立当初の財産目録中基本財産の部に記載された財産
 - 二 基本財産とすることを指定して寄附された財産
 - 三 理事会で基本財産に繰り入れることを議決した財産
- 3 運用財産は、基本財産以外の資産とする。

(資産の管理)

第31条 この法人の資産は、理事長が管理し、基本財産のうち現金は、理事会の議決を経て定期預金とする等確実な方法により、理事長が保管する。

(基本財産の処分の制限)

第32条 基本財産は、譲渡し、交換し、担保に供し、又は運用財産に繰り入れてはならない。ただし、この法人の事業遂行上やむを得ない理由があるときは、理事現在数及び正会員現在数の3分の2以上の議決を経、かつ、文部科学大臣の承認を受けて、その一部に限りこれらの処分をすることができる。

(経費の支弁)

第33条 この法人の事業遂行に要する経費は、運用財産をもって支弁する。

(事業計画及び収支予算)

第34条 この法人の事業計画及びこれに伴う収支予算は、理事長が編成し、理事会及び総会の議決を経て、毎事業年度開始前に、文部科学大臣に届け出なければならない。事業計画及び収支予算を変更しようとする場合も同様とする。

(暫定予算)

第35条 前条の規定にかかわらず、やむを得ない事情により予算が成立しないときは、理事長は、理事会の議決を経て、予算成立の日まで前年度の予算に準じ収入支出することができる。

- 2 前項の収入支出は、新たに成立した予算の収入支出とみなす。

(収支決算)

第36条 この法人の収支決算は、理事長が作成し、財産目録、貸借対照表、事業報告書及び正味財産増減計算書並びに会員の異動状況書とともに、監事の意見を付け、理事会及

び総会の承認を受けて毎事業年度終了後 3 月以内に文部科学大臣に報告しなければならない。

2 この法人の収支決算に収支差額があるときは、理事会の議決及び総会の承認を受けて、その一部又は全部を基本財産に編入し、又は翌年度に繰り越すものとする。

(長期借入金)

第 37 条 この法人が借入れをしようとするときは、その事業年度の収入をもって償還する短期借入金を除き、理事現在数及び正会員現在数の各々の 3 分の 2 以上の議決を経、かつ、文部科学大臣の承認を受けなければならない。

(新たな義務の負担等)

第 38 条 第 32 条ただし書及び前条の規定に該当する場合並びに収支予算で定めるものを除くほか、この法人が新たな義務の負担又は権利の放棄のうち重要なものを行おうとするときは、理事会及び総会の議決を経なければならない。

(事業年度)

第 39 条 この法人の事業年度は、毎年 4 月 1 日に始まり、翌年 3 月 31 日に終わる。

第 7 章 定款の変更及び解散

(定款の変更)

第 40 条 この定款は、理事現在数及び正会員現在数の各々の 4 分の 3 以上の議決を経、かつ、文部科学大臣の認可を受けなければ変更することができない。

(解散)

第 41 条 この法人の解散は、理事現在数及び正会員現在数の各々の 4 分の 3 以上の議決を経、かつ、文部科学大臣の許可を受けなければならない。

(残余財産の処分)

第 42 条 この法人の解散に伴う残余財産は、理事現在数及び正会員現在数の各々の 4 分の 3 以上の議決を経、かつ、文部科学大臣の許可を受けて、この法人の目的に類似の目的を有する公益法人に寄附するものとする。

第 8 章 事務局

(事務局長及び事務職員)

第43条 この法人の事務を処理するため、事務局長及び必要な職員を置く。

- 2 事務局長は、理事会の同意を得て理事長が任免する。
- 3 職員は、理事長が任免する。
- 4 事務局長及び職員は有給とする。ただし、理事が事務局長を兼ねるときは無給とする。
- 5 事務局の組織及び運営に必要な事項は、理事会の議決を経て、理事長が別に定める。

第9章 補則

(書類及び帳簿の備え付け等)

第44条 この法人の事務所に、次の書類及び帳簿を備えなければならない。ただし、他の法令により、これらに代わる書類及び帳簿を備えたときは、この限りでない。

- 一 定款
- 二 会員の名簿
- 三 役員及びその他の職員の名簿及び履歴書
- 四 財産目録
- 五 資産台帳及び負債台帳
- 六 収入支出に関する帳簿及び証拠書類
- 七 理事会及び総会の議事に関する書類
- 八 官公署往復書類
- 九 収支予算書及び事業計画書
- 十 収支計算書及び事業報告書
- 十一 貸借対照表
- 十二 正味財産増減計算書
- 十三 その他必要な書類及び帳簿

2 前項第1号から第5号までの書類、同項第7号の書類及び同項第9号から第12号までの書類は永年、同項第6号の帳簿及び書類は10年以上、同項第8号及び第13号の書類及び帳簿は1年以上保存しなければならない。

3 第1項第1号、第2号、第4号及び第9号から第12号までの書類並びに役員名簿は、これを一般の閲覧に供するものとする。

(細則)

第45条 この定款の施行についての細則は、理事会及び総会の議決を経て、別に定める。

附則

- 1 この定款は、文部科学大臣の設立許可があった日(平成#年#月#日)から施行する。

2 第34条の規定にかかわらず、この法人の設立初年度の事業計画及び収支予算は、設立総会の定めるところによる。

3 第39条の規定にかかわらず、この法人設立当初の事業年度は、平成#年#月#日から平成#年#月#日までとする。

4 第14条の規定にかかわらず、この法人設立当初の理事及び監事は次のとおりとする。

理事（理事長） ###

理事（副理事長） ###

理事（副理事長）（総務担当） ###

理事（事業担当） ###

理事（事業担当） ###

理事（事後評価解析担当） ###

理事（制度・システム開発担当） ###

理事（有識者） ###

理事（有識者） ###

理事（広報・推進担当） ###

監事 ###

5 従来の共用試験実施機構は、この法人の設立許可があったときに解散し、これに属した権利義務の一切は、この法人が継承する。

獣医学共用試験機構(仮称) 経費見込み(試算)

初年度予算額(案)

(単位:万円)

収入	単価	員数	小計
大学会費	35~80	16	785
受験料	1.8	1000	1800
再受験料	1.8	50	90
収入計			2675
支出			
事業費支出			822
試験直前確認旅費	5	16	80
試験監督旅費	3	96	288
会議旅費	5	10	50
謝金(講師など)	2	10	20
試験監督手当	3	96	288
試験監督補助手当	1	96	96
管理費支出			1961
給料手当(事務員:常勤)	300	1	300
給料手当(事務担当理事:非常勤)	282	2	564
福利厚生費	70	1	70
退職金積み立て(事務員)	15	1	15
事務所賃借料	15	12	180
高熱水料費	30	1	30
消耗品	30	1	30
印刷製本	50	1	50
備品	50	1	50
通信費	6	12	72
試験用ソフトウェア運用費	300	1	300
ソフトウェア・備品更新積み立て	200	1	200
他雑費	100	1	100
支出計			2783

	定員(人)	固定(万円)	学生数調整(万円)	計
北大	40	20	20	40
帯広	40	20	20	40
岩手	30	20	15	35
農工	35	20	17.5	37.5
東京	30	20	15	35
岐阜	30	20	15	35
鳥取	35	20	17.5	37.5
山口	30	20	15	35
宮崎	30	20	15	35
鹿児島	30	20	15	35
府大	40	20	20	40
酪農	120	20	60	80
日大	120	20	60	80
日獣医	80	20	40	60
北里	120	20	60	80
麻布	120	20	60	80
計	930	320	465	785
	固定分	学生1人分		
		20	0.5	

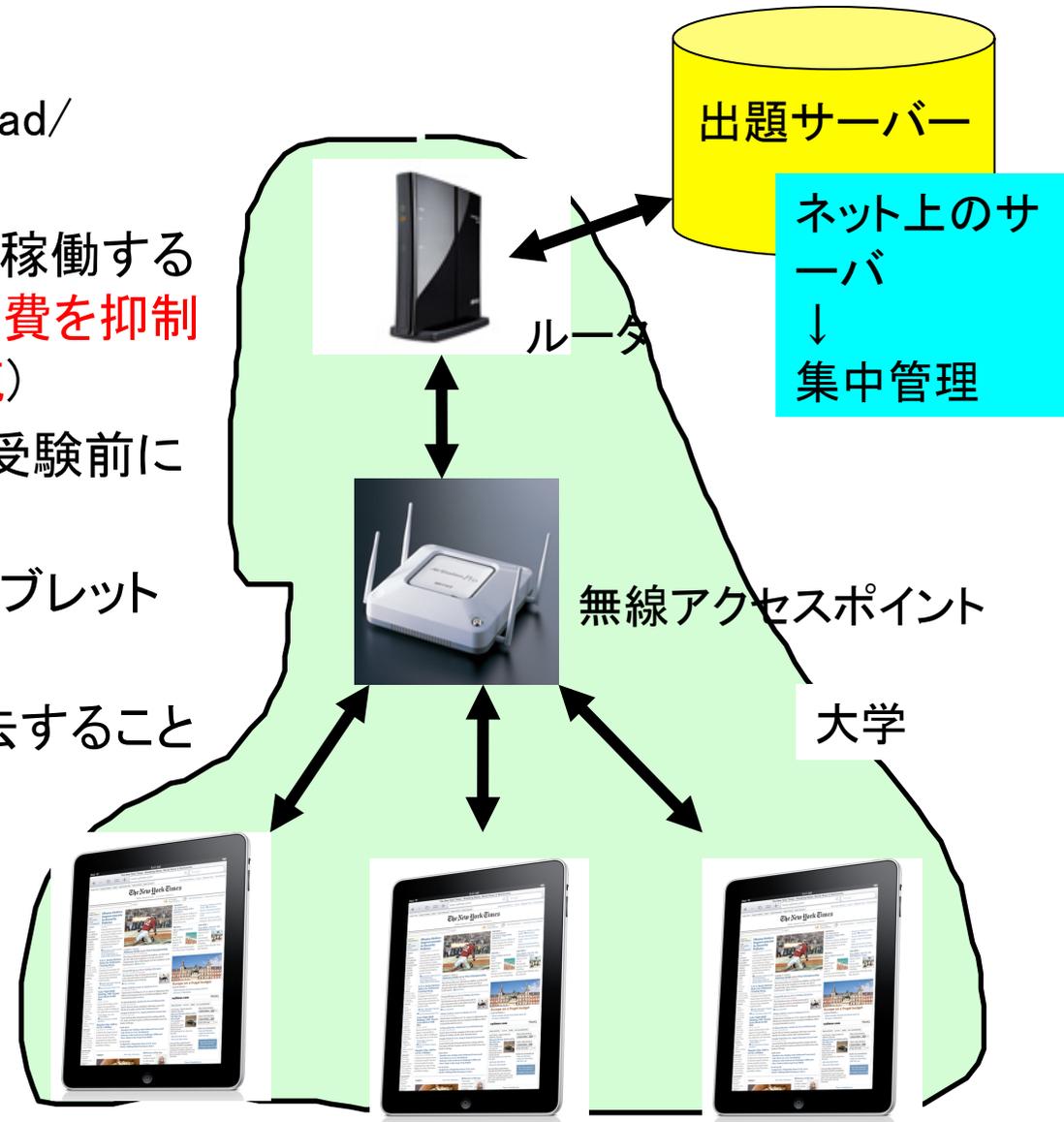
CBT 実施に伴う設備・装置の比較

		専用 PC 室を用いる方法	ノート型 PC を用いる方法	タブレット型 PC を用いる方法
インターネット接続の方法	試験室内	有線または無線	有線または無線	無線
	試験室・サーバー	大学 LAN→CBT サーバー	大学 LAN→CBT サーバー または 民間回線→CBT サーバー	大学 LAN→CBT サーバー または 民間回線→CBT サーバー
システム開発の難度		容易(ただし大学ごとの状況を取り込む場合難度大)	容易(ただし大学ごとの状況を取り込む場合難度大)	中程度
個人端末の持ち込み		—	可(ただし、独自プログラムによる試験問題漏洩に対抗する必要)	可(試験ソフトの稼働試験が必要)
セキュリティ構築の難度		難度高	難度高	比較的容易
端末の安定性(持ち込みの場合)		大学によって異なる	OS の安定性、バージョン、ウイルス感染の可能性などのチェックが必要	ノート PC に比べると安定 iPad ならウイルスチェックは不要
CBT システムバージョンアップの必要性		試験実施大学の情報システムの改変ごとに必要	OS またはブラウザのバージョンアップごとに必要	携帯端末の OS バージョンアップおよび新製品発売ごとに必要
費用	端末装置	5~20 万円/台 ただし、すでに施設を持つ大学は問題ないが、新たに設置するには多額の経費がかかる。	5~10 万円/台 端末の保管場所について大学ごとに問題が生じやすい	4 万円/台 端末の保管場所に問題が起きることはノートパソコンと共通するが、貸出で活用できる可能性はノートパソコンよりも高い
	LAN 接続	無線の場合 50 回線同時接続で 4~20 万円程度 有線の場合は数 10~100 万円		無線の場合 50 回線同時接続で 4~20 万円程度
	電源	—	交流電源を人数分設置(数 10~100 万円)	単三電池を用いる携帯充電器 1000 円/台
現状		現時点で、人数分の PC を備えた部屋を持つ大学は限られている？	すでに大多数の学生は所持しているが当日 PC を持参する割合は半数？	保有率 7%程度(近畿大学調べ)、教育活用コンテンツを提供することにより 4 年後はかなり普及している。

副次・波及効果	なし	なし	教育上の診療情報共有。教育用コンテンツのペーパーレス化、電子教科書および双方向授業などの教育上の効果が期待される

低コスト・高安定の実施形式の提案

- 受験者端末→タブレット(iPad/Android)
- 試験ソフトはタブレット上で稼働するアプリケーション(電池の消費を抑制→6時間安定した試験実施)
- ネット上のサーバーから、受験前にタブレットに問題配信
- 試験中には、サーバーとタブレットのやり取りは無い
- 試験後に、試験問題を消去することによりセキュリティ確保



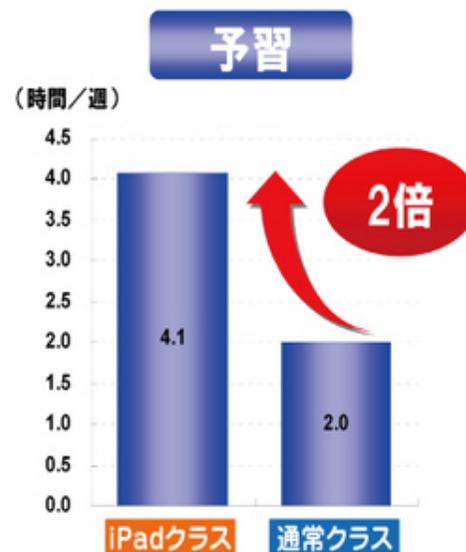
学生のタブレットも活用できる試験方法

- 試験前日から受験用タブレットを預かる
- 試験前に会場で問題受信
- 試験中は試験アプリケーション以外は起動できないように設定
- 試験中には成績をタブレット内に保持
- 試験後にサーバーに成績送信
- サーバーから成績受信確認コード送信
- 成績受信確認コードを受信したタブレットは問題を消去
- 問題を消去したタブレットには明確にわかる図形を表示(例えばバーコードが表示され、監督教員がバーコードの読み取り後退室を許可するなどの方法が可能)



タブレットの普及を推進することによる 教育上の波及効果

- 双方向教育の推進
 - 講義中の小テスト。
 - プリントや課題のペーパーレス化。
- 大学の情報センター化
 - 電子カルテの利用で診療・疾病情報の集約が可能に



『電子書籍を活用した教育スタイル創造研究会』

農家名: 黒田努
獣医氏名: 鈴木一由
個体ID: 0123456789
病名: _____

カルテNo.: _____
診療日: _____
時間: _____ ~ _____
症状: _____

乳牛1号
乳牛2号
乳牛3号
乳牛4号
乳牛5号
乳牛6号
乳牛7号
乳牛8号
乳牛9号
乳牛10号
乳牛11号
乳牛12号
乳牛13号
乳牛14号
乳牛15号

抗生剤注射薬 | 抗生剤注入薬 | 経口薬 | ホルモン剤 | その他 | 非出荷制限薬

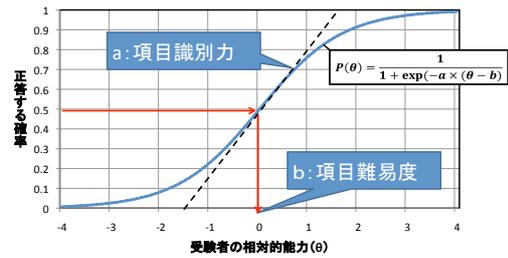
エクセネル (1g) (1/7) [] 単位
カナマイシン (1m) (1.5/30) [] 単位

岐阜大学が統括している予算で開発中のiPad利用電子カルテ

項目反応理論を使うことにより

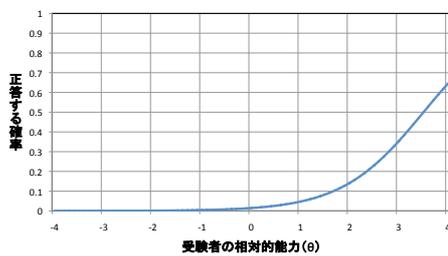
1. 各項目(問題)の難易度、識別度がわかる
2. 受験生の能力を問題の難易度を考慮し、正確に判定できる

項目の特性曲線



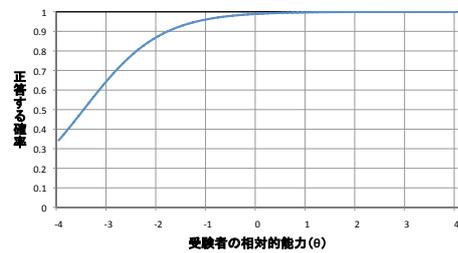
(上の曲線はa=1.2 b=0の場合)

難しすぎて不適切な項目

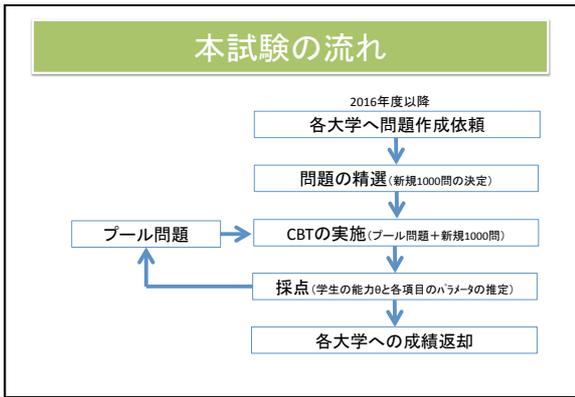
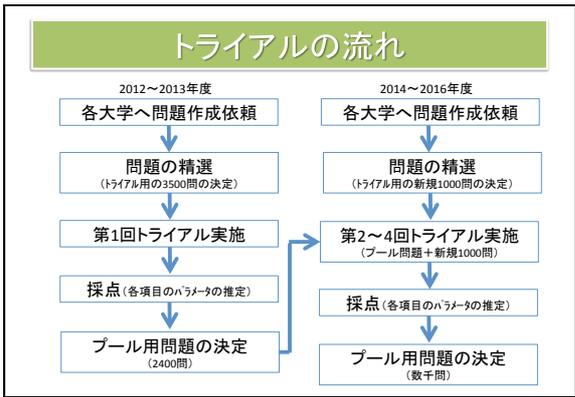
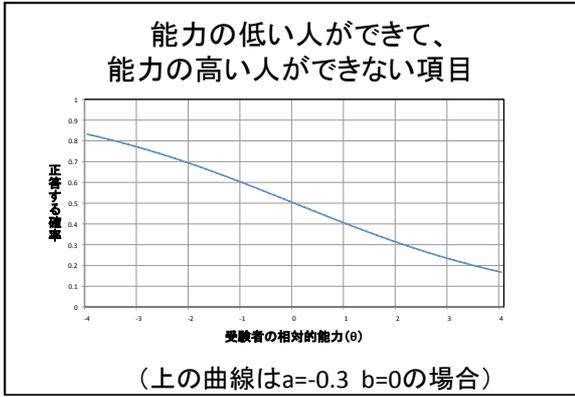
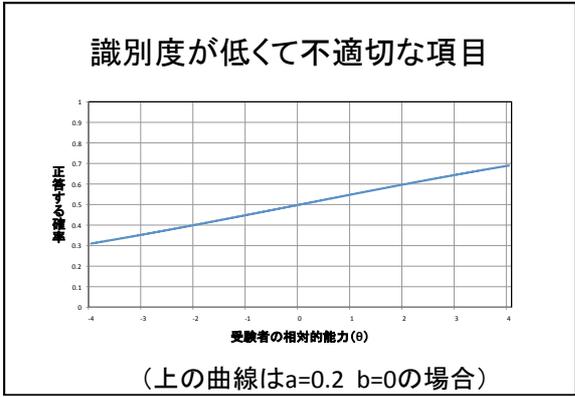


(上の曲線はa=1.2 b=3.5の場合)

優しすぎて不適切な項目



(上の曲線はa=1.2 b=-3.5の場合)



20120501 DRAFT 追加修正 8 月 14 日

参加型臨床実習における実習学生の質確保を目的とした獣医学共用試験 (vet-CAT) の開発研究のためのアンケート調査

はじめに

獣医学教育の充実・改善の取組において、社会の要請に応えうる実践的な獣医師の養成のためには公衆衛生・衛生・臨床分野での「インターンシップを含む体験型、及び参加型臨床実習」の実施等が必要となります。

獣医師の資格がない学生が参加型臨床実習で動物（患者）に接する場合には、必要不可欠な知識・技能・態度が備わっていることを動物所有者（飼育者）に示し、診療に参加することに同意してもらうことが必要です（獣医師法第 17 条違法性の阻却要件）。全国獣医学関係大学代表者協議会は、参加型臨床実習を行う学生の質の確保と保証のための方策について獣医学共用試験調査委員会を設け、調査を依頼しました。同委員会で検討した結果、医学・歯学・薬学の手法を参考として「獣医学共用試験」の開発を進めるべきとの結論に達しました。この答申を受け、平成 22 年 9 月本協議会に共用試験準備委員会を立ち上げました。平成 23 年 5 月文科省「獣医学教育の改善・充実に関する調査研究協力者会議」の取り纏めが公表され、「共用試験の導入に向けた検討」が具体的方策として提言されました。これらの流れを受けて、平成 23 年 9 月全国協議会に共用試験委員会など 6 つの実務委員会が設置されました。

共用試験委員会は、現在、獣医臨床教育における「診療行為に参加する学生の事前評価について社会的信頼を得る仕組み」として vetCBT（コンピュータを用いた知識評価）と vetOSCE（獣医臨床における診察技能と態度の評価）からなる獣医学共用試験（vet-CAT, Veterinary Common Achievement Test）の準備を平成 28 年度の本格実施に向けて開始しました。

獣医学において、重要な位置付けにある参加型臨床実習に臨む上で学生の学習に関する準備が十分にできているか否かをシステムティックに検討することが vet-CAT 導入の目的です。さらに国家試験という卒業後 1 回の試験ではなく、教育課程の途上においても共用試験によって獣医師としての適格性と能力を評価する機会を設けることによって、獣医師教育の質の向上に繋がり得るものと考えます。今回、参加型臨床実習における実習学生の質確保を目的とした vet-CAT の開発研究を目的として、全国獣医系大学教員の皆様にアンケート調査を実施しますので、ご協力よろしくお願い致します。

平成 18 年度から正式実施となった医学部における共用試験は、認知領域の到達度（知識・問題解決能力等）を評価するコンピュータを用いた「客観試験」(Computing based testing, CBT) と、精神運動領域（技能）や情意領域（態度・習慣）の到達度を評価する「客観的臨床技能試験」(Objective structured clinical examination, OSCE) から成っています。これらの試験は医学部において全国 80 医科大学・大学医学部が協力して実施するとの意味から「共用試験」と呼ばれています。医学部共用試験の CBT は、基本的には 5 肢選択問題から成るもので、1 名の受験者に対して 320 の設問がパソコンの画面に表示され、それを 6 時間で回答するものです。設問はプールされている約 1 万題の中からランダムに出題されます。したがって、パソコン上に表示される問題は受験者によって異なります。しかし、あらかじめ各設問の難易度が決められているために、出題された問題の難易度が受験者によって著しく異なることはありません。採点は即座に実施され、いつ、どこでも、受験することが可能な試験であるため、効率的かつ利便性も高いと評価されています。

本アンケートにおいて、獣医学共用試験 (vet-CAT) とは、全国の獣医系大学の学生を対象に臨床獣医学実習における参加型臨床実習の開始前に行うコンピュータを用いた知識領域の到達度評価試験 (vet-CBT) および臨床技能や態度の到達度評価試験 (vet-OSCE) の二つを合わせたものと定義します。

アンケート用紙

1) ご自身に関してお答えください。

問 1. あなたの性別は？

1. 男 2. 女

問 2. あなたの年齢は？

1. 24～29 歳 2. 30～39 歳 3. 40～49 歳 4. 50～59 歳
5. 60 歳以上

問 3. あなたの獣医系大学教員経験年数は？

1. 5 年以下 2. 6～10 年 3. 11～20 年 4. 21 年以上

問 4. あなたの現在の職位は？

1. 助手 2. 助教 3. 講師 4. 准教授 5. 教授

問 5. あなたが現在所有している資格は？（複数回答可）

1. 獣医師 2. 動物看護師 3. 医師 4. 薬剤師
5. その他（具体的に_____）

問 6. 現在の所属大学におけるあなたの在職年数は？

1. 5 年以下 2. 6～10 年 3. 11～20 年 4. 21 年以上

問 7. あなたが現在所属する大学の設置形態は？

1. 国立大学 2. 公立大学 3. 私立大学

問 8. あなたが現在所属する大学における主な教育分野は下記のどれですか？

1. 導入教育（獣医学概論、獣医倫理・動物福祉、獣医法規）
2. 基礎獣医学教育分野（解剖学、組織学、発生学、生理学、生化学、薬理学、動物遺伝育種学、動物行動学、実験動物学、放射線生物学）
3. 病態獣医学教育分野（病理学、免疫学、微生物学、家禽疾病学、魚病学、動物感染症学、寄生虫学）
4. 応用獣医学教育分野（動物衛生学、公衆衛生学、食品衛生学、環境衛生学、毒性学、人獣共通感染症学、疫学、野生動物学）
5. 臨床獣医学教育分野
6. その他（具体的に_____）

2) 共用試験についてお答えください。

問 9. 医学・歯学並びに薬学において、5 年次の参加型臨床実習の学生質保証のために 4 年後期末に、共用試験が実施されていたことをご存知でしたか？

1. 獣医学共用試験の話題が出る前から知っていた 2. 知らなかった

問 10. 獣医学共用試験の話題が出る前から、医学・薬学の共用試験がコンピュータを用いる知識試験（CBT）と実技試験（OSCE）から構成されることをご存知でしたか。

1. 両方知っていた 2. CBT は知っていた 3. OSCE は知っていた 4. 知らなかった

問 11. 現在、5-6 年次の学生間で臨床系・応用系獣医学領域の知識・技能・態度に差があると思いますか？

1. そう思う 2. ややそう思う 3. あまり思わない 4. 思わない

問 24. 問題作成において、他の人が作成した問題の項目が分かると便利ですか

1. そう思う 2. どちらでも良い 3. 思わない

問 25. 問題作成画面で改良を希望する事項はありますか

1. ある（具体的に： _____） 2. ない

問 26. 問題作成の際に、これがあると便利だと感じた機能はありますか

1. ある（具体的に： _____） 2. ない

4) 実施前の共用試験について、期待・心配・不安に感じていることにお答え下さい。

問 27. 獣医学共用試験は、FD（ファカルティ・ディベロップメント）の側面からも有用であると思われる？

1. そう思う 2. ややそう思う 3. あまり思わない 4. 思わない

問 28. 獣医学共用試験は貴学の獣医学部（あるいは獣医学科）の外部評価として有用であると思いますか？

1. そう思う 2. ややそう思う 3. あまり思わない 4. 思わない

問 29. 参加型臨床実習までに学習したことを卒業時まで定着させるために獣医学共用試験は有用であると思いますか？

1. そう思う 2. ややそう思う 3. あまり思わない 4. 思わない

問 30. 獣医学共用試験は大学教育の独自性を阻む危険性があると思いますか？

1. そう思う 2. ややそう思う 3. あまり思わない 4. 思わない

1を選んだ方は、どのような側面で独自性を阻むか具体的に例示してください

問 31. 獣医学共用試験ができると、教員は独自の教育の工夫をしなくなると思いますか？

1. そう思う 2. ややそう思う 3. あまり思わない 4. 思わない

問 32. 獣医学共用試験の実施は、大学の特色づくりの方向と逆行・矛盾すると思いますか？

1. そう思う 2. ややそう思う 3. あまり思わない 4. 思わない

問 33. 獣医学共用試験を実施することで、学生の知識・技能・態度のレベルが、これまで以上に向上すると思いますか？

1. そう思う 2. ややそう思う 3. あまり思わない 4. 思わない

5) 共用試験の試験内容についてお答え下さい。

問 34. 獣医学共用試験で測るべき項目はどれですか？（複数回答可）

1. 専門的知識 2. 問題解決能力 3. 技術 4. 態度・習慣
5. その他（具体的に _____）

問 35. 参加型臨床実習前においては、専門的知識のみではなく、一般的な社会人としての持つべき知識も確認した方が良いと思いますか？

1. そう思う 2. ややそう思う 3. あまり思わない 4. 思わない

問 36. 獣医学共用試験に含める内容として必要と思われるものはどれですか？（複数回答可）

1. 専門基礎科目 2. 専門科目 3. 一般教養科目 4. 読解力
5. 推論・分析力 6. その他（具体的に _____）

問 37. 以下の科目の知識について、参加型臨床実習までに身につける必要性の程度についてどう考えますか？次の4つの中から1つ選び、()に数字を記入して下さい。

4：とても必要	3：やや必要	2：あまり必要でない	1：必要ない
---------	--------	------------	--------

- 1) 導入教育：獣医学概論、獣医倫理・動物福祉、獣医事法規 ()
- 2) 基礎獣医学教育分野：解剖学、組織学、発生学、生理学、生化学、薬理学、動物遺伝育種学、動物行動学、実験動物学、放射線生物学 ()
- 3) 病態獣医学教育分野：病理学、免疫学、微生物学、家禽疾病学、魚病学、動物感染症学、寄生虫学 ()
- 4) 応用獣医学教育分野：動物衛生学、公衆衛生学、食品衛生学、環境衛生学、毒性学、人獣共通感染症学、疫学、野生動物学 ()
- 5) 臨床獣医学教育分野 ()

問 38. 獣医学共用試験の問題の難易度（期待される平均正答率）についてどのようにお考えですか？

1. 90% 2. 80% 3. 70% 4. 60% 5. 50%

問 39. 個々の問題の難易度についてどのように考えますか？最も適切と思われる番号を一つ選んで下さい。

1. どちらかと言えば平易な問題を多くする方が良い
2. どちらかと言えば難しい問題を多くする方が良い
3. 平易から難しい問題まで多様な難易度の問題を含める方が良い
4. すべての問題が同じくらいの難しさの問題をそろえると良い

問 40. 獣医学共用試験の結果を何らかの合否判定に使用する場合、その基準をどのようにしたら良いと考えますか？

1. 各大学に一任する
2. 全大学に共通する一律の基準を設けても良い

問 41. 多肢選択式問題の選択肢数で最も適切と思われる数はどれですか？

1. 2 択 2. 3 択 3. 4 択 4. 5 択 5. 6～10 択

問 42. 多肢選択形式問題には、獣医師国家試験の実地試験問題（D）にも含まれる血液検査項目などの状況設定された課題に対して複数の問いを回答させる方法もあります。獣医学共用試験では、このような形式の問題をどの程度含める必要があるとお考えですか？

1. 30%程度含める必要がある
2. 20%程度含める必要がある
3. 10%程度含める必要がある
4. 必要ない

6) 共用試験の取り扱いについてお答え下さい。

問 43. 獣医学共用試験の実施にあたり、各大学が学生に卒業時に修得させる能力を明確にすることが大事であると思いますか？

1. そう思う 2. ややそう思う 3. あまり思わない 4. 思わない

問 44. 獣医学共用試験の結果を進級判定に用いるべきであると思いますか？

1. そう思う 2. ややそう思う 3. あまり思わない 4. 思わない

問 45. 獣医学共用試験と獣医師国家試験との関係を明確化すべきであると思いますか？

1. そう思う 2. ややそう思う 3. あまり思わない 4. 思わない

問 46. 獣医学共用試験の実現のためにはトライアル試験（試行試験）を何年間実施する必要がありますか？

1. 4年間 2. 3年間 3. 2年間 4. 1年間 5. 試行は不要
6. その他（具体的に_____）

問 47. 獣医学共用試験が行われる場合に、貴大学ではどの時期に実施するのが妥当だと思いますか？

1. 3年次後期 2. 4年次前期 3. 4年次後期 4. 5年次前期
5. 5年次後期 6. その他（具体的に_____）

問 48. 獣医学共用試験が行われる場合に、得点が一定の基準に満たない場合の追試験・再試験は必要であると思いますか？

1. そう思う 2. ややそう思う 3. あまり思わない 4. 思わない

問 49. 獣医学共用試験を実施する場合には、そのシステム作りをするセンターや拠点を設置する必要があると思いますか？

1. そう思う 2. ややそう思う 3. あまり思わない 4. 思わない

問 50. 各大学の獣医学共用試験成績を管理する担当者を主としてどこに置いたら良いと思いますか？

1. 大学の教務部門・事務部門に置く
2. 獣医学共用試験担当教員を置く
3. とくに置かなくても良い
4. その他（具体的に_____）

7) 参加型臨床実習についてお尋ねします（共用試験実施前の過渡期）

問 51. 臨床系の参加型実習（小動物と大動物を含めて）の期間はどれくらい必要であるとお考えですか？

1. 4週間 2. 5～8週間 3. 9～12週間 4. 13～16週間

問 52. 参加型臨床実習の指導体制において当てはまるものはどれですか？（複数回答可）（どのような指導体制を想定していますか？）

1. 教員が指導している
2. 外部実習施設の実習指導者が指導している
3. 大学が雇用した臨時の実習指導者が指導している
4. 大学院生・TA（ティーチング・アシスタント）が指導している
5. その他（具体的に_____）

アンケートご苦労様でした。最後に

問 53. 獣医学共用試験に関して、ご意見等を記述して下さい。（自由記述）

獣医学共用試験 第1回問題作成作業の結果 2012-07

大学名	登録	入力問題数	1人あたり	参考 (専任教員数)
酪農学園大学	59	553	9.37	49
北海道大学	51	662	12.98	51
帯広畜産大学	40	418	10.45	22
北里大学	54	702	13.00	55
岩手大学	25	276	11.04	25
東京農工大学	33	321	9.73	33
東京大学	41	449	10.95	37
日本大学	38	276	7.26	41
麻布大学	67	850	12.69	59
日本獣医生命大学	60	821	13.68	59
岐阜大学	33	377	11.42	34
大阪府立大学	40	527	13.18	53
鳥取大学	32	382	11.94	31
山口大学	33	409	12.39	32
宮崎大学	25	338	13.52	32
鹿児島大学	32	359	11.22	33
合計	667	7720	11.58	646

問題精選作業全体像

例：公衆衛生学総論

「一般目標1、到達目標1」の問題

A302-010-010-001-0

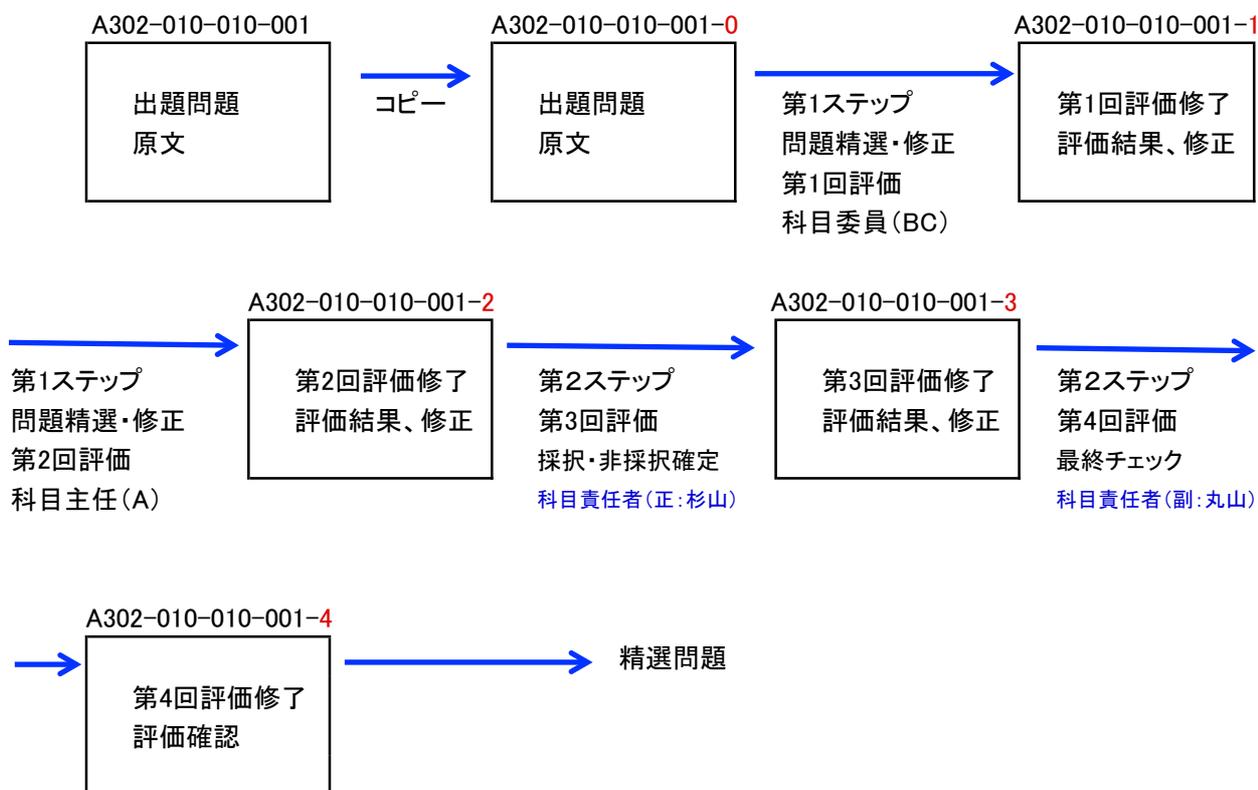
科目 番号	一般 項目 番号	到達 目標 番号	問題 番号	評価 シート
----------	----------------	----------------	----------	-----------

評価担当(例): vetCBT小委員会(杉山、稲葉、池田、片倉、望月)

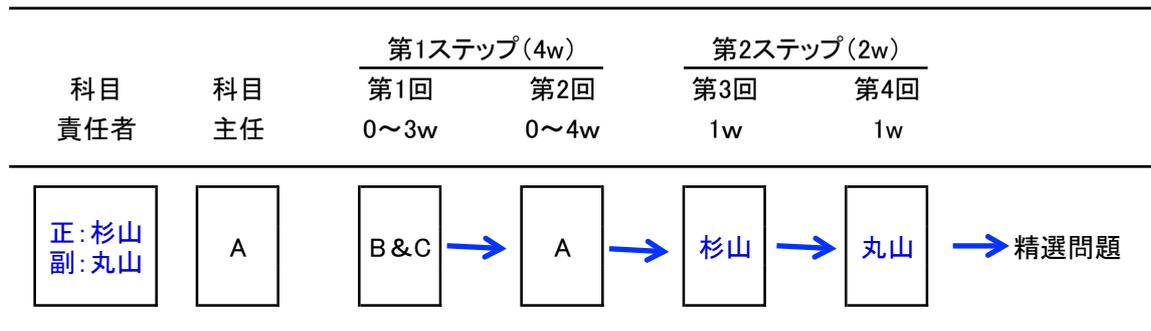
vetCBT問題内容検討部会(応用分野)

分野責任者(正:杉山、副:丸山、樋口)・・・科目責任者=杉山(正)、丸山(副)

科目委員(3名 ABC)・・・A:科目主任、BC:科目委員1・2



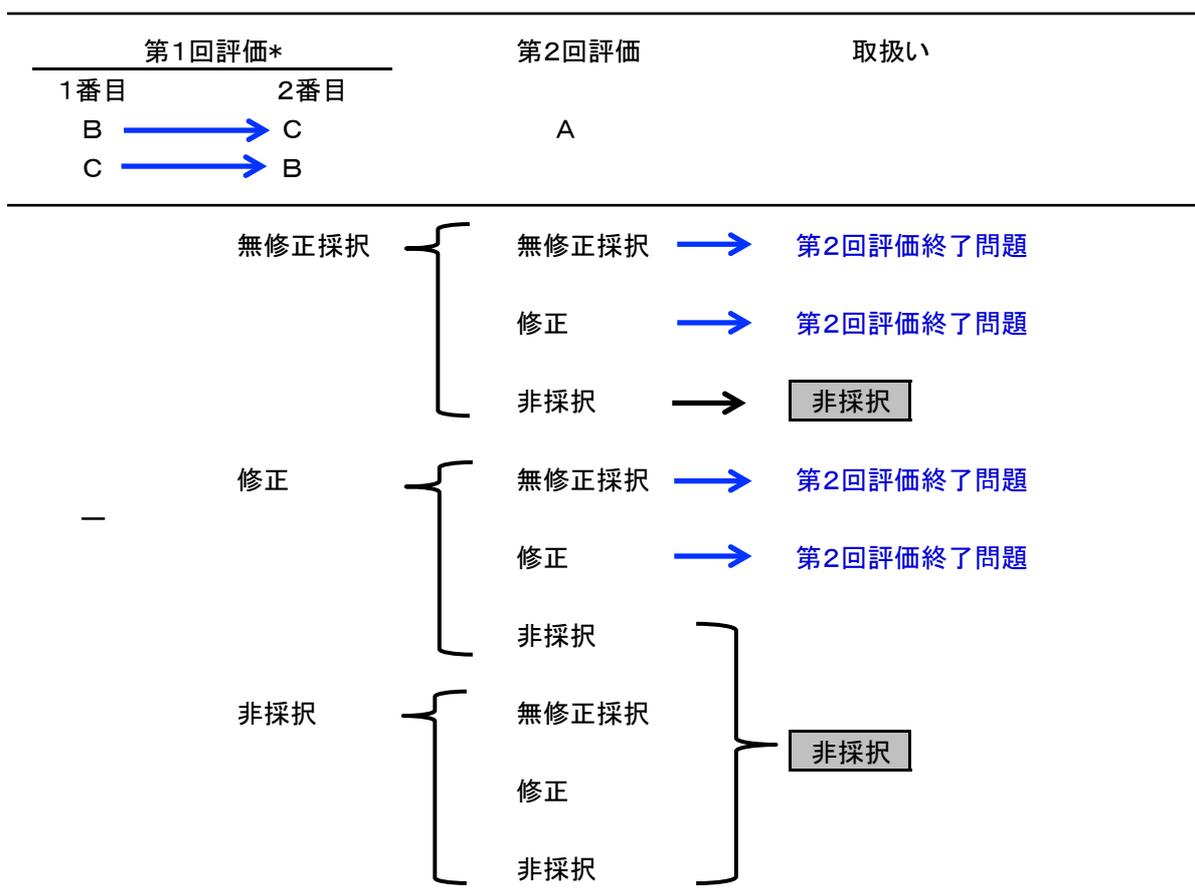
第1～5回評価(2ヶ月以内)



評価結果の取扱い

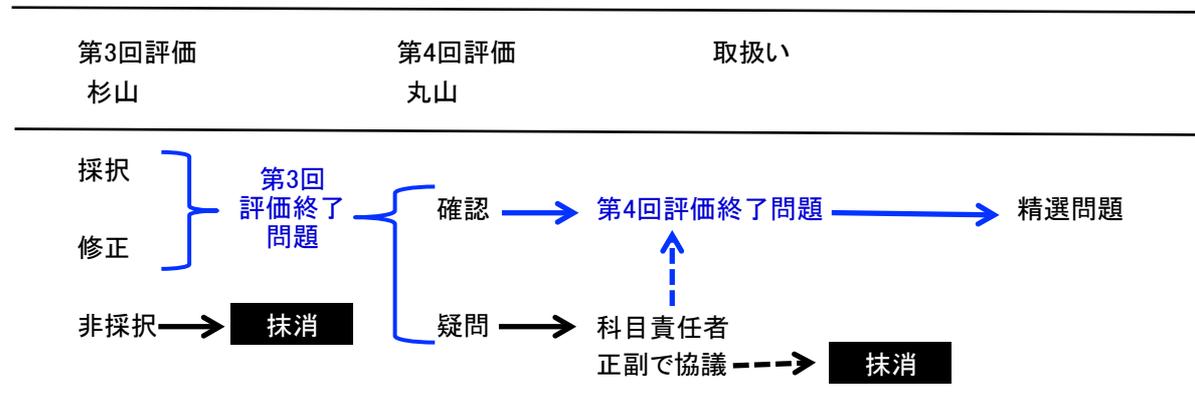
評価担当(例): vetCBT小委員会(杉山、稲葉、池田、片倉、望月)
 vetCBT問題内容検討部会(応用分野)
 分野責任者(正:杉山、副:丸山、樋口)・・・科目責任者=杉山(正)、丸山(副)
 科目委員(3名 ABC)・・・A:科目主任、BC:科目委員1・2

第1～3回評価結果の取扱い



*第1回審査:原則として、一方が番号の前から、他方が後ろから作業を進める。ただし、第1番目の審査が重要と考えられるので、専門性によって役割分担しても構わない。

第3～5回評価結果の取扱い



分野	部会責任者 (正○、副△)	所属	科目 責任者	科目副 責任者	科目	到達 目標数 (CBT範囲)	出題数 (H24.7.10)	科目 主任	所属	科目 委員1	所属	科目 委員2	所属	
導入 基礎	○池田正浩	宮大	川崎	鈴木	1-1	獣医学概論	26	伊藤伸彦	北里大	土屋 亮	麻布大	芳賀 猛	東大	
	△川崎安亮	鹿大	川崎	中島	1-2	獣医倫理・動物福祉学	12	橋爪 一善	岩手大	柿沼美紀	日獣大	岡田利也	府大	
	△中島崇行	府大	木村	池田	1-3	獣医事法規	20	伊藤伸彦	北里大	植田富貴子	日獣大	堀内雅之	帯畜大	
	△鈴木浩悦	日獣大	中島	池田	1-4	解剖学	51	九郎丸正道	東大	保田昌宏	宮大	佐々木基樹	帯畜大	
	△木村和弘	北大	中島	鈴木	1-5	組織学	39	小川和重	府大	齋藤 正一郎	岐大	保坂善真	鳥大	
			中島	鈴木	1-6	発生学	19	尼崎 肇	日獣大	山本雅子	麻布大	中牟田信明	岩大	
			鈴木	川崎	1-7	生理学	84	志水泰武	岐大	中村洋一	府大	翁長武紀	酪農	
			木村	池田	1-8	生化学	63	杉谷博士	日大	竹中重雄	府大	浅野 淳	鳥大	
			池田	川崎	1-9	薬理学	71	堀 正敏	東大	乙黒兼一	北大	白石光也	鹿大	
			鈴木	木村	1-10	動物遺伝育種学	18	今川和彦	東大	鈴木勝士	日獣大	国枝哲夫	岡山大	
			川崎	中島	1-11	動物行動学	36	森 裕司	東大	横須賀 誠	日獣大	下鶴倫人	北大	
			池田	中島	1-12	実験動物学	39	久和 茂	東大	安居院高志	北大	岡田利也	府大	
			池田	川崎	1-13	放射線生物学	13	稲波 修	北大	遠藤大二	酪農大	浅沼武敏	宮崎大	
小計						491	2875							
病態	○片倉 賢	北大	代田	村瀬	2-1	病理学	96	山口良二	宮崎大	桑村 充	府大	内田和幸	東大	
	△代田欣二	麻布大	代田	片倉	2-2	免疫学	37	池田輝雄	麻布大					
	△村瀬敏之	鳥大	村瀬	片倉	2-3	微生物学	74	福士秀人	岐大	前田 健	山口大	佐藤久聡	北里大	
			村瀬	代田	2-4	家禽疾病学	37	高瀬公三	鹿大	山口剛士	鳥取大	竹原一明	農工大	
			片倉	代田	2-5	魚病学	35	児玉 洋	府大	森友忠昭	日大	和田新平	日獣大	
			片倉	代田	2-6	動物感染症学	41	福士秀人	岐大	末吉益雄	宮崎大	芳賀 猛	東大	
			片倉	村瀬	2-7	寄生虫病学	60	野中成晃	宮崎大	横山直明	帯畜大	加藤大智	北大	
小計						380	1665							
応用	○杉山 誠	岐大	樋口	丸山	3-1	動物衛生学	22	末吉益雄	宮崎大	*		村上賢二	岩手大	
	△丸山総一	日大	杉山	丸山	3-2	公衆衛生学総論	18	田村 豊	酪農大	三澤尚明	宮崎大	荏和宏明	北大	
	△樋口 豪紀	酪農大	丸山	樋口	3-3	食品衛生学	19	三澤尚明	宮崎大	三宅眞実	府大	中馬猛久	鹿大	
			樋口	杉山	3-4	環境衛生学	34	上野俊治	北里大	佐藤 至	岩手大	植田富貴子	日獣大	
			樋口	丸山	3-5	毒性学	43	寺岡宏樹	酪農大	佐藤晃一	山口大	石塚真由美	北大	
			丸山	杉山	3-6	人獣共通感染症学	22	山田章雄	東大	荏和宏明	北大	村松康和	酪農大	
			杉山	丸山	3-7	疫学	38	林谷秀樹	農工大	加藤行男	麻布大	藤田浩平	酪農大	
			杉山	丸山	3-8	野生動物学	12	坪田敏男	北大	鈴木正嗣	岐阜大	羽山伸一	日獣大	
小計						208	1021							
臨床 A	○稲葉 睦	北大	佐藤	稲葉	4-1	内科学総論	18	滝口満喜	北大	片本 宏	宮崎大	笹井和美	府大	
	△佐藤れえ子	岩大	稲葉	奥田	4-2	臨床病理学	15	松木直章	東大	盆子原 誠	日獣大	大和 修	鹿大	
	△亘 敏広	日大	奥田	亘	4-3	臨床薬理学	3	堀 正敏	東大	下田 実	農工大	西飯直仁	岐阜大	
	△奥田 優	山口大	亘	奥田	4-4	呼吸循環器病学	9	竹村直行	日獣大	藤井洋子	麻布大	山谷吉樹	日大	
			亘	奥田	4-5	消化器病学	7	大野 耕一	東大	坂井 学	日大	滝口満喜	北大	
			佐藤	亘	4-6	泌尿生殖器病学	13	星 史雄	北里大	大石明広	帯畜大	津曲茂久	日大	
			佐藤	奥田	4-7	内分泌代謝病学	5	左向敏紀	日獣大	松木直章	東大	西飯直仁	岐阜大	
			奥田	稲葉	4-10	血液免疫病学	3	盆子原 誠	日獣大	久末正晴	麻布大	山崎真大	北大	
			奥田	亘	4-11	皮膚病学	5	笹井和美	府大	前田貞俊	岐阜大	西藤公司	農工大	
			佐藤	亘	4-12	臨床行動学	6	内田佳子	酪農大	武内ゆかり	東大	入交眞巳	北里大	
			亘	佐藤	4-20	画像診断学	8	宮原和郎	帯畜大	滝口満喜	北大	藤田道郎	日獣大	
小計						92	876							
臨床 B	○山下和人	酪農大	猪熊	田中	4-8	臨床栄養学	6	左向敏紀	日獣大	及川 伸	酪農大	西飯直仁	岐阜大	
	△猪熊 壽	帯畜大	山下	岡野	4-9	神経病学	9							
	△田中 知己	農工大	岡野	山下	4-13	外科学総論	13							
	△岡野 昇三	北里大	岡野	山下	4-14	手術学総論	20							
	△望月 学	東大	山下	岡野	4-15	麻酔学	30							
			山下	岡野	4-17	運動器病学	5							
			岡野	山下	4-18	臨床腫瘍学	7							
			山下	岡野	4-19	眼科学	3							
			猪熊	田中	4-21	産業動物臨床学	45	198	山岸則夫	岩手大	田島善士	酪農大	大場恵典	岐阜大
			猪熊	田中	4-22	馬臨床学	5	26	及川正明	北里大	佐々木直樹	帯畜大	帆保誠二	鹿大
		田中	猪熊	4-23	臨床繁殖学	57	343	玉田尋通	府大	村瀬哲磨	岐阜大	永野昌志	北大	
小計						200	1281							
合計						1371	7718							

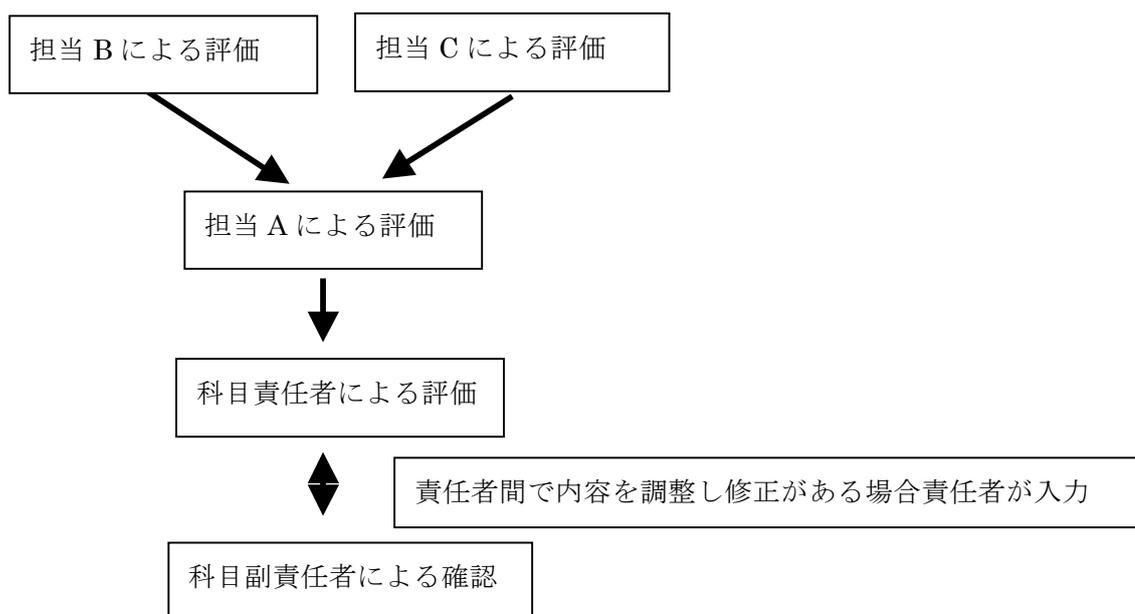
*名前の非公表を希望した委員

CBT 問題 精選プログラム マニュアル 先行版 Ver2

2012 年 8 月 15 日(水)

フォーマット・マニュアル委員会

作業過程の概要 (矢印で進行順を示す。矢印が一方方向の場合逆方向には戻ることができない)



精選過程上の役割

役名	作業上の役割	作業順	参考
科目責任者	最終評価(無修正採択・修正採択・非採択の判断)	4	事実上の最終確認
科目副責任者	最終確認の事後への記録(記録のみで実際の修正はしない)	5	確認とコメントのみ。差し戻しはしない
科目担当 A	担当 B および担当 C の修正を確認して必要な場合再修正等の判断	3	担当 B および担当 C が終了するまで、該当問題は見えない
科目担当 B	一次評価(無修正採択・修正採択・非採択の判断)	1	担当 C と並行して評価を進行
科目担当 C	一次評価(無修正採択・修正採択・非採択の判断)	1	担当 B と並行して評価を進行

精選サイト URL

http://w1.vet-cato.org/cbt_selection/

CBT 問題精選・修正作業の評価ポイント

全体像（無修正採択に該当する問題）

- ・一題 1 分程度で解答できる。
 - 分かりやすい問題・解答選択肢
 - 単一の内容のみを含む問題・解答選択肢
 - 否定構文を出来るだけ避ける。
- ・選択肢の内容は、原則として同一範疇とする。

予想正答率は 60%以上

非採択とする場合の基準（プログラム上で選択）

理由
明らかに問題・解答が間違っている
出題の意図が不明確である
難易度が高く、正答率 50%未満が予想される
明らかにコアカリの範囲外である
学説の変化、法律の改正等により、今後、修正される可能性が高い内容である
その他(自由記載欄)

修正する場合の基準（修正理由に記載する）

出題箇所（到達目標）の修正

文章の修正

長文を出来るだけ短文に修正する。

主語述語の関係を確認・修正する。

分かりにくい表現を分かりやすく修正する。

明らかに正解が 2 つある場合、一つの選択肢を別の内容に修正する。

→修正不可能の場合、不採択問題にする。

文末に「？」を付けない。

否定構文の場合、否定部分に下線を入れる。

問題と解答の両方が否定構文・句の場合、どちらかを肯定記述に修正する

その他

マニュアルの参照方法

科目担当 B または C、科目担当 A、科目責任者および科目副責任者で表示される画面と操作が異なりますので、それぞれのケースに分けて次ページから操作マニュアルをご覧ください。

担当の役割と異なるマニュアルを参照すると、操作を誤る可能性があります。必ず、自分の担当のマニュアルのページであることを確認後、ご参照ください。

疑問点があれば、 support@mail.vet-cato.org にメール下さい。

次ページから 担当別マニュアル

① ログイン

メインメニュー 設問精選 精選状況 ログアウト

利用者情報

これらをタブといいます

ログインID	dendoh6@rakuno.ac.jp
利用者コード [大字番号(3桁)-利用者番号(4桁)] ユーザーアカウント	001-0678
氏名	遠藤 大六
氏名(フリガナ)	えんどう だいろく
権限 権限(役割を確認)	科目委員C (C)
担当科目	• マニュアル用ダミー科目
パスワード	パスワードの変更はこちら

② 問題精選タブの選択と「確認」ボタンのクリック

メインメニュー 設問精選 精選状況 ログアウト

設問一覧

分野:導入教育・基礎獣医学教育分野 **審査していない問題に未確認の文字が出る**
 科目:マニュアル用ダミー科目

コード	ステータス	タイトル	好きな順で問題を 選び 確認ボタンをクリックする 本文	操作
一般目標:マニュアル用ダミー目標 到達目標:植物に関する知識				
A114-010000-1	未確認	[サンプル]裸子植物について	次のうち裸子植物にない物はどれでしょう。	確認
A114-010000-1	未確認	[サンプル]光合成について	光合成は細胞の中のどの部分で行われるか。	確認
A114-010000-0	未確認	[サンプル]果実について	果実は何が変化したものか。	確認
A114-010000-0	未確認	[サンプル]被子植物を選ぶ	次の選択肢の中から被子植物を選びなさい。	確認
A114-010000-0	未確認	[サンプル]植物の分類	桜は次の選択肢のうち、何に分類されるか。	確認
A114-010000-0	未確認	[サンプル]双子葉類	次の選択肢の中から双子葉類に分類されるものを選びなさい。...	確認

③ 問題の選択と評価

a) 無修正採択を選択する場合 → 当該問題終了

メインメニュー 設問精選 精選状況 ログアウト

コアカリキュラム コード	A114-010-010
分野	A1. 導入教育・基礎獣医学教育分野
科目	14. マニュアル用ダミー科目
一般目標	010. マニュアル用ダミー目標
到達目標	010. 火山に関する知識

[設問一覧に戻る](#)

無修正採択 修正採択 非採択

設問の確認

[サンプル]火成岩の構成 **無修正を選択した場合、この設問の作業は終了**

次の図のうち、「チ」の火成岩はマグマがどのようになってできたと考えられますか。

- b) 修正 → 内容の修正・修正理由の記載 → 画面一番下の保存ボタンをクリックする → 当該問題終了

選択肢 2*

カビ ← ワラビをカビに書き換えたが、変更した記述のみ残っていればよい。修正のための線などは必要ない

選択肢 3*

イチョウ

選択肢 4*

朝顔

選択肢 5*

松

問題の解説(簡単で結構です)*

x, x' U

「中学校理科 植物の花と葉のつくり」からの出題です。
朝顔が正解です。

正答*

4

予想正解率[%]*

90

修正理由には、難易度、混同する用語の存在、重要性の低さなどを記載する

修正理由*

文章の修正

修正理由(その他)

ワラビでは被子植物と混同するケースが多く、難易度が高すぎるため



- c) 非採択を選択する場合 → 非採択理由を選択(その他の場合自由記述)

メインメニュー 設問精選 精選状況 ログアウト

コアカリキュラム コード	A114-010-010
分野	A1. 導入教育・基礎獣医学教育分野
科目	14. マニュアル用ダミー科目
一般目標	010. マニュアル用ダミー目標
到達目標	010. 火山に関する知識

設問一覧に戻る

非採択を選択した場合、理由の選択肢が表示されます

無修正採択 修正採択 非採択

非採択理由選択画面

[設問一覧に戻る](#)

「非採択」の場合は、画面下の「非採択理由」を必ず選択してください。

非採択理由*

- 明らかに問題・解答が間違っている
- 出題の意図が不明確である
- 難易度が高く、正答率50%未満が予測される
- 明らかにコアカリの範囲外である
- 学説の変化、法律の改正等により、今後、修正される可能性が高い内容である
- その他(自由記載欄)

反転している行をずらして、理由を選択してください

非採択

理由選択後、非採択 ボタンをクリックしてください。

d) 評価後には、評価状況が表示される

[メインメニュー](#) [設問精選](#) [精選状況](#) [ログアウト](#)

設問状況一覧

分野: 導入教育・基礎獣医学教育分野 科目: マニュアル用ダミー科目		担当者BCが見ている状況の画面				
コード	タイトル	本文	第1ステップ(先)	第1ステップ(後)	第2ステップ	第3ステップ
一般目標: マニュアル用ダミー目標 到達目標: 植物に関する知識		担当者BでもCでも先に審査したことが第1ステップ(先)として表示される				
A114-010000	[サンプル] 裸子植物について	次のうち裸子植物にない物はどれでしょう。	無修正採択	無修正採択	第1ステップ(先)と第1ステップ(後)の双方が埋まると科目担当Aが審査できるようになる	
A114-010000	[サンプル] 光合成について	光合成は細胞の中のどの部分で行われるか。	無修正採択	無修正採択		
A114-010000	[サンプル] 果実について	果実は何が変化したものか。	非採択			
A114-010000	[サンプル] 被子植物を選ぶ	次の選択肢の中から被子植物を選びなさい。	修正採択		担当者BでもCでも後に審査したことが第1ステップ(後)として表示される	
A114-010000	[サンプル] 植物の分類	桜は次の選択肢のうち、何に分類されるか。	修正採択			

④ すべての問題が終了するまで評価実施

① ログイン

メインメニュー 設問精選 精選状況 ログアウト

利用者情報

これらをタブといいます

ログインID	dendoh4@rakuno.ac.jp
利用者コード [大学番号(3桁)-利用者番号(4桁)]	001-0676
氏名	遠藤 大四
氏名(フリガナ)	えんどう だいやん
権限	権限を確認 → 科目委員A (A)
担当科目	• マニュアル用ダミー科目
パスワード	パスワードの変更はこちら

② 精選状況タブの選択 精選状況確認 → 担当 BC の双方が終了している問題のみ精選可能

メインメニュー 設問精選 精選状況 ログアウト

設問状況一覧

コード	タイトル	本文	第1ステ ップ(先)	第1ステ ップ(後)	第2ス テップ	第3ス テップ
分野:導入教育・基礎獣医学教育分野 科目:マニュアル用ダミー科目						
一般目標:マニュアル用ダミー目標 到達目標:植物に関する知識						
A114-010000	[サンプル]裸子植物について	次のうち裸子植物でない物はどれでしょう。	無修正採択	無修正採択		
A114-010000	[サンプル]光合成について	光合成は細胞の中のどの部分で行われるか。	無修正採択	無修正採択		
A114-010000	[サンプル]果実について	果実は何が変化したものか。	非採択			

審査可能

非採択が一度でもつくと、精選画面には表示されなくなる

設問状況一覧

コード	タイトル	本文	第1ステ ップ(先)	第1ステ ップ(後)	第2ス テップ	第3ス テップ
分野:導入教育・基礎獣医学教育分野 科目:マニュアル用ダミー科目						
一般目標:マニュアル用ダミー目標 到達目標:植物に関する知識						
A114-010000	[サンプル]裸子植物について	次のうち裸子植物でない物はどれでしょう。	無修正採択	無修正採択	無修正採択	
A114-010000	[サンプル]光合成について	光合成は細胞の中のどの部分で行われるか。	無修正採択	無修正採択	非採択	
A114-010000	[サンプル]果実について	果実は何が変化したものか。	非採択	誰かが非採択とするとそれ以降は設問精選画面に表示されなくなる		
A114-010000	[サンプル]被子植物を選ぶ	次の選択肢の中から被子植物を選びなさい。	修正採択	無修正採択		
A114-010000	[サンプル]植物の分類	桜は次の選択肢のうち、何に分類されるか。	修正採択	無修正採択		
A114-010000	[サンプル]双子葉類	次の選択肢の中から双子葉類に分類されるものを選びなさい。...	無修正採択	非採択		
A114-010000	[サンプル]光合成の仕組み	光合成の式を完成させなさい。二酸化炭素+水→で...	非採択			

③ 問題精選タブの選択

メインメニュー 設問精選 精選状況 ログアウト

設問一覧

分野:導入教育・基礎獣医学教育分野 科目:マニュアル用ダミー科目				
コード	ステータス	タイトル	本文	操作
一般目標:マニュアル用ダミー目標 到達目標:植物に関する知識				
A114-010000-2	未確認	[サンプル]裸子植物について	次のうち裸子植物でない物はどれでしょう。	確認
A114-010000-2	未確認	[サンプル]光合成について	光合成は細胞の中のどの部分で行われるか。	確認

科目担当BとCの双方の審査が終了した問題は2つのみなので2つのみ表示される。2人とも終わった問題が無い場合は全く表示されない

④ 問題の選択と 「確認」 ボタンのクリック

a) 無修正採択の選択 → 当該問題終了

メインメニュー 設問精選 精選状況 ログアウト

コアカリキュラム コード	A114-010-010
分野	A1. 導入教育・基礎獣医学教育分野
科目	14. マニュアル用ダミー科目
一般目標	010. マニュアル用ダミー目標
到達目標	010. 火山に関する知識

[設問一覧に戻る](#)

設問の確認

[サンプル]火成岩の構成 無修正を選択した場合、この設問の作業は終了

次の図のうち、「チ」の火成岩はマグマがどのようになってできたと考えられますか。

b) 修正 → 内容の修正・修正理由の記載 → 当該問題終了

選択肢 2*

カビ ← ワラビをカビに書き換えたが、変更した記述のみ残ってればよい。修正のための線などは必要ない。

選択肢 3*

イチョウ

選択肢 4*

朝顔

選択肢 5*

松

問題の解説(簡単に結構です)*

× × U
 「中学校理科 植物の花と葉のつくり」からの出題です。
 朝顔が正解です。

正答*

4

予想正解率[%]*

90

修正理由には、難易度、混同する用語の存在、重要性の低さなどを記載する

修正理由*

文章の修正

修正理由(その他)

ワラビでは被子植物と混同するケースが多く、難易度が高すぎるため

保存

c) 非採択を選択する場合 → 非採択理由を選択(その他の場合自由記述) → 当該問題終了

メインメニュー 設問精選 精選状況 ログアウト

コアカリキュラム コード	A114-010-010
分野	A1. 導入教育・基礎獣医学教育分野
科目	14. マニュアル用ダミー科目
一般目標	010. マニュアル用ダミー目標
到達目標	010. 火山に関する知識

非採択を選択した場合、理由の選択肢が表示されます

[設問一覧に戻る](#)

無修正採択 修正採択 非採択

非採択理由選択画面

[設問一覧に戻る](#)

「非採択」の場合は、画面下の「非採択理由」を必ず選択してください。

非採択理由*

明らかに問題・解答が間違っている

明らかに問題・解答が間違っている

出題の意図が不明確である

難易度が高く、正答率50%未満が予測される

明らかにコアカリの範囲外である

学説の変化、法律の改正等により、今後、修正される可能性が高い内容である

その他(自由記載欄)

反転している行をずらして、理由を選択してください

非採択 ← 理由選択後、非採択 ボタンをクリックしてください。

⑤ すべての問題が終了するまで評価実施

① ログイン

メインメニュー 設問精選 精選状況 ログアウト

利用者情報

ログインID	dendoh1@rakuno.ac.jp
利用者コード [大学番号(3桁)-利用者番号(4桁)]	001-0680
氏名	遠藤 大一
氏名(フリガナ)	えんどう だいいち
権限	科目責任者 ()
担当科目	• マニュアル用ダミー科目
パスワード	パスワードの変更はこちらから

権限の確認 →

② 精選状況タブの選択 精選状況確認 → 担当 ABC の全員が終了している問題のみ精選可能

メインメニュー 設問精選 精選状況 ログアウト

設問状況一覧

分野:導入教育・基礎獣医学教育分野
科目:マニュアル用ダミー科目

コード	タイトル	本文	第1ステップ(先)	第1ステップ(後)	第2ステップ
一般目標:マニュアル用ダミー目標 到達目標:植物に関する知識			科目担当者ABCが終わった問題のみ表示される		
A114-010000	[サンプル]裸子植物について	次のうち裸子植物にない物はどれでしょう。	無修正採択	無修正採択	無修正採択
A114-010000	[サンプル]光合成について	光合成は細胞の中のどの部分で行われるか。	無修正採択	無修正採択	非採択
A114-010000	[サンプル]果実について	果実は何が変化したものか。	非採択		
A114-010000	[サンプル]被子植物を選ぶ	次の選択肢の中から被子植物を選びなさい。	修正採択	無修正採択	非採択
A114-010000	[サンプル]植物の分類	桜は次の選択肢のうち、何に分類されるか。	修正採択	無修正採択	無修正採択
A114-010000	[サンプル]双子葉類	次の選択肢の中から双子葉類に分類されるものを選びなさい。...	無修正採択	非採択	
A114-010000	[サンプル]光合成の仕組み	光合成の式を完成させなさい。二酸化炭素+水→で...	非採択		

③ 問題精選タブの選択

④ 問題の選択と 「確認」 ボタンのクリック

メインメニュー 設問精選 精選状況 ログアウト

設問一覧

分野:導入教育・基礎獣医学教育分野 科目:マニュアル用ダミー科目				
コード	ステータス	タイトル	本文	操作
一般目標:マニュアル用ダミー目標 到達目標:植物に関する知識				
A114-010000-2	未確認	[サンプル]裸子植物について	次のうち裸子植物でない物がどれでしょう。	確認
A114-010000-2	未確認	[サンプル]光合成について	光合成は細胞の中のどの部分で行われるか。	確認

科目担当BとCの双方の審査が終了した問題は2つのみなので2つのみ表示される。2人とも終わった問題が無い場合は全く表示されない

a) 無修正採択の選択 → 当該問題終了

メインメニュー 設問精選 精選状況 ログアウト

コアカリキュラム コード	A114-010-010
分野	A1. 導入教育・基礎獣医学教育分野
科目	14. マニュアル用ダミー科目
一般目標	010. マニュアル用ダミー目標
到達目標	010. 火山に関する知識

[設問一覧に戻る](#)

設問の確認

[サンプル]火成岩の構成 無修正を選択した場合、この設問の作業は終了

次の図のうち、「子」の火成岩はマグマがどのようになってできたと考えられますか。

b) 修正 → 内容の修正・修正理由の記載 → 当該問題終了

選択肢 2*

カビ ← ワラビをカビに書き換えたが、変更した記述のみ残ってればよい。修正のための線などは必要ない

選択肢 3*

イチョウ

選択肢 4*

朝顔

選択肢 5*

松

問題の解説(簡単で結構です)*

×, ×¹ U
 「中学校理科 植物の花と葉のつくり」からの出題です。
 朝顔が正解です。

正答*

4

予想正解率[%]*

90

修正理由には、難易度、混同する用語の存在、重要性の低さなどを記載する

修正理由*

文章の修正

修正理由(その他)

ワラビでは被子植物と混同する場合が多く、難易度が高すぎるため

保存

c) 非採択を選択 → 非採択理由を選択(その他の場合自由記述) → 当該問題終了

メインメニュー 設問精選 精選状況 ログアウト

コアカリキュラム コード	A114-010-010
分野	A1. 導入教育・基礎獣医学教育分野
科目	14. マニュアル用ダミー科目
一般目標	010. マニュアル用ダミー目標
到達目標	010. 火山に関する知識

非採択を選択した場合、理由の選択肢が表示されます

[設問一覧に戻る](#)

無修正採択 修正採択 非採択

非採択理由選択画面

[設問一覧に戻る](#)

「非採択」の場合は、画面下の「非採択理由」を必ず選択してください。

非採択理由*

明らかに問題・解答が間違っている
 明らかに問題・解答が間違っている
 出題の意図が不明確である
 難易度が高く、正答率50%未満が予測される
 明らかにコアカリの範囲外である
 学説の変化、法律の改正等により、今後、修正される可能性が高い内容である
 その他(自由記載欄)

反転している行をずらして、理由を選択してください

非採択

理由選択後、非採択 ボタンをクリックしてください。

c)

⑤ すべての問題が終了するまで評価実施

① ログイン（下記画面では 科目責任者となっていますが副責任者が表示されます。）

メインメニュー 設問精選 精選状況 ログアウト

利用者情報

ログインID	dendoh1@rakuno.ac.jp
利用者コード [大学番号(3桁)-利用者番号(4桁)]	001-0680
氏名	遠藤 大一
氏名(フリガナ)	えんどう だいいち
権限	科目責任者 ()
担当科目	<ul style="list-style-type: none"> マニュアル用ダミー科目
パスワード	パスワードの変更はこちらから

権限の確認 →

② 精選状況タブの選択 精選状況確認 → 担当 ABC および科目責任者の全員が終了している問題のみ精選可能

メインメニュー 設問精選 精選状況 ログアウト

設問状況一覧

分野:導入教育・基礎獣医学教育分野
科目:マニュアル用ダミー科目

コード	タイトル	本文	第1ステップ(先)	第1ステップ(後)	第2ステップ
一般目標:マニュアル用ダミー目標 到達目標:植物に関する知識			科目担当者ABCが終わった問題のみ表示される		
A114-010000	[サンプル]裸子植物について	次のうち裸子植物にない物は何でしょう。	無修正採択	無修正採択	無修正採択
A114-010000	[サンプル]光合成について	光合成は細胞の中のどの部分で行われるか。	無修正採択	無修正採択	非採択
A114-010000	[サンプル]果実について	果実は何が変化したものか。	非採択		
A114-010000	[サンプル]被子植物を選ぶ	次の選択肢の中から被子植物を選びなさい。	修正採択	無修正採択	非採択
A114-010000	[サンプル]植物の分類	桜は次の選択肢のうち、何に分類されるか。	修正採択	無修正採択	無修正採択
A114-010000	[サンプル]双子葉類	次の選択肢の中から双子葉類に分類されるものを選びなさい。...	無修正採択	非採択	
A114-010000	[サンプル]光合成の仕組み	光合成の式を完成させなさい。二酸化炭素+水→...	非採択		

③問題確認後、内容を修正または非採択とすべき問題が発見された場合、科目責任者に連絡を取り、対応を協議する

vet-OSCE 準備小委員会報告

3. 各会議・委員会の経過報告

5) vet-OSCE 準備小委員会

準備小委員会開催 第2回 4月12日 メール委員会 随時 第3回 日程調整中

獣医学会でのシンポジウム開催 要旨作成+シミュレーター展示

シミュレーター開発：京都科学との協議

具体的内容の詳細についての協議、特に医療面接

実施スケジュール

平成24年 シンポジウム、広報活動、科研費申請

平成25年 広報活動、トライアル準備、シミュレーター開発、模擬患者養成

平成26年 第1回トライアル(1-2校)、シミュレーター開発、模擬患者養成

平成27年 第2回トライアル(半数以上)、シミュレーター開発、模擬患者養成

平成28年 本試験実施

Vet-OSCE 実施に向けた地ならし作業

4. 今後の検討事項

a. 具体的内容

1) Vet-OSCE の概要 (検討中)

Vet-OSCE 資料 1

2) 各ステーションの内容検討 具体的内容と手順書作成 Vet-OSCE 資料 2

医療面接 (担当 鷺巣) Vet-OSCE 資料 2-1

身体検査 1 + 採血 イヌ (上地、藤井、鷺巣)

身体検査 2 ウシ (山岸、高橋) Vet-OSCE 資料 2-2

無菌テクニック (上地、藤井) Vet-OSCE 資料 2-3

皮膚縫合 (上地、藤井) Vet-OSCE 資料 2-4

3) 科学研究費申請 (平成25年度から3年間を予定、基盤 A)

代表者：

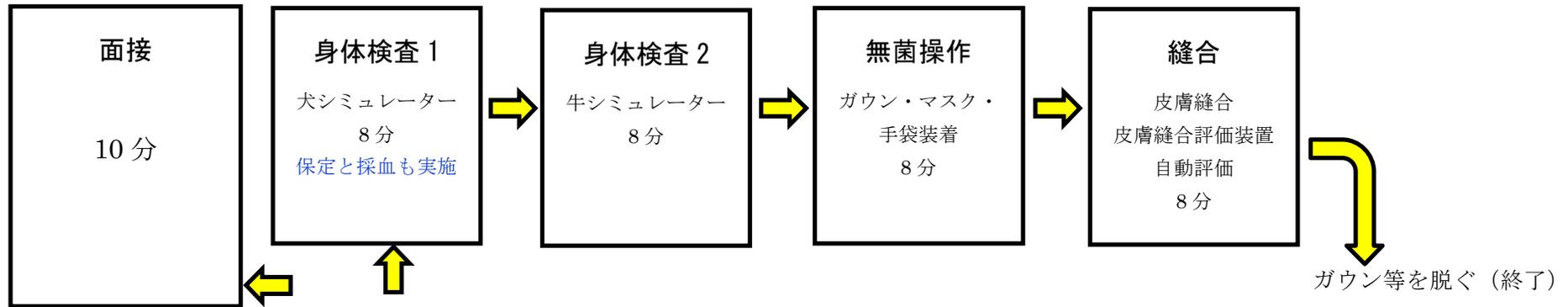
共同研究者：Vet-OSCE 小委員会委員 + 各大学委員の選定。全大学を網羅する。

Vet-OSCE 小委員会委員 北川 (岐阜大)、鷺巣 (日獣大)、山岸 (岩手大)、藤井 (麻布大)、上地 (日大)、高橋 (大阪府大)、大沢 (宮崎大)

未定：北大、帯畜大、酪農大、北里大、東京大、農工大、鳥取大、山口大、鹿児島大

- 4) トライアル試験と必要な環境整備、(科研費採択が必要)
- 各大学の Vet-OSCE 担当者＝科研費の共同研究者 (若手教員) + それなりの立場の人)
 - 共用試験 (Vet-OSCE) 実施機構構築
 - Vet-OSCE 評価者養成システム (全国版)
 - 模擬クライアント養成システム
 - シミュレーター整備 身体検査モデル (イヌ、子牛)、採血モデル、皮膚縫合 (京都科学と協議中)
 - 手順書作成ー必要な消耗品の確認 (トライアルのための消耗品調達)
 - トライアル実施 平成 26 年度に 1-2 校で実施 日本獣医畜産大学?、可能であれば岐阜大学
- 5) 各大学の環境整備 情報提供 Vet-OSCE 資料 3
- 第 7 回獣医学教育改革委員会会議 9 月 15 日午前
「Vet-OSCE (獣医学オスキー) の役割と事業推進案」北川
- 第 6 回獣医学教育改革シンポジウム 9 月 16 日午前 Vet-OSCE 資料 3-2
「医学系共用試験 OSCE についてー 概要と実施
北村 聖 東京大学医学教育国際協力研究センター
「見学型実習から参加型実習への転換、一参加型実習実現に向けての
OSCE (客観的臨床能力試験) の役割ー」
- 1) 獣医学 OSCE (Vet-OSCE) の概要 はじめに 北川 均 岐阜大学
 - 2) Vet-OSCE における医療面接 鷺巣月美 日本獣医生命科学大学
 - 3) 産業動物に関する OSCE 山岸則夫 岩手大学、高橋正弘 大阪府立大学
 - 4) 教育用シミュレーターの開発 山内浩之 (株) 京都科学
 - 5) 小動物に関する OSCE 藤井洋子 麻布大学、上地正実 日本大学
別途ブースを借りて京都科学による教育用シミュレーターを展示
- 各大学での説明 (北川、鷺巣 他) を予定
11 月頃から年度末にかけて、全国の獣医系大学で OSCE に関する説明会を実施したい

vetOSCE の体制 5 ステーション



所要時間 40名 面接：10分×40名=400分（6.66時間）他のステーション8分で順次進行：344分+α

配置要員

面接
 管理者
 評価者
 外部評価者
 模擬オーナー ×3 交代
 タイムキーパー（兼補助）

身体検査1、身体検査2、採血、無菌操作、縫合ステーション
 管理者（評価者を兼ねる）
 評価者
 補助者（器具などの準備、誘導）
 タイムキーパー（5ブースを管理する）

1レーンで学生40名対応。 120名では3レーン必要

全体
 管理者、補助管理者
 全体の外部評価者
 補助者 器具準備、誘導
 受付・管理

トライアル実施小委員会

構成：責任者・高井（北里大）副・山下（酪農大）遠藤（酪農大）望月（東大）鷲巣（日獣大）

16 大学 IT 環境整備を担当する教員各 2 名位（CBT フォーマット・マニュアル小委員会）

- 機能：1. 共用試験トライアルを平成 25 年度から実施する
2. 各大学の CBT 試験環境を調査する
 3. 各大学の OSCE 試験環境を調査する
 4. 各大学のトライアル実施体制と実施環境を整備する

報告・検討事項

1. アンケート調査の実施：質問票を検討中（資料あり）
2. 16 大学から IT 環境整備を担当する教員各 2 名位を選出して頂く（9 月全国協議会で依頼）
3. 8 月 14 日の幹事会における各小委員会の報告と検討を受け、トライアル小委員会の作業工程表を作成する。
4. その他

[| トップページ | サイトマップ | プライバシーポリシー |](#)



平成
28年
より

獣医学共用試験準備委員会

獣医学共用試験 始まります!!

お問合せ

➔ 共用試験について

概要について

vetCBTについて

vetOSCEについて

➔ 共用試験委員会について

委員長あいさつ

目的・事業

活動報告

組織図

委員会構成

会員名簿

➔ 共用試験Q&A

➔ お問合せ

➔ 関連リンク

➔ サイトマップ

獣医学教育
関係者のみなさまへ

獣医学共用試験
受験生のみなさまへ

獣医学共用試験ってなに?

共用試験は、学部教育において参加型臨床実習を実施する学生の質の確保と保証の前提として、平成28年から開始されます。

現在、獣医臨床教育における「診療行為に参加する学生の事前評価について社会的信頼を得る仕組み」として獣医学共用試験(vetCBTとvetOSCE)の準備を平成28年度の本格実施に向けて開始しました。

[詳しくはこちら](#)



獣医学共用試験実施までのロードマップ

平成25～27年のトライアル試験期間を経て、平成28年から共用試験が実施されます。

	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年
トライアル試験	第1回 (数校)	第2回 (半数)	第3回 (全校)		
共用試験				第1回 共用試験	共用試験

お知らせ News Release 一覧▶

▶ 2012/4/20
[ホームページを公開しました。](#)

[▲ページ上部に戻る](#)

獣医学共用試験準備委員会

代表：北里大学獣医学部 〒034-8628 青森県十和田市東23番町35-1
電話：0176-23-4371 FAX：0176-23-8703

Since2012 Copyright©獣医学共用試験準備委員会

共通テキスト編集時に生じるコアカリのマイナーチェンジの要望について：

現在、コアカリ準拠の共通テキストの編纂が進んでいますが、その過程で、コアカリ自身を変更したという要望が複数来ています。コアカリ小委員会としては以下の対応を取ることを確認しています。

1. 到達目標の順番

順序を変えたいという要望はかなりあります。例えば、重要項目順に羅列したが、教科書記述には合わない、などです。

対応： 順序は変えて頂いてかまいません。次回のコアカリ改訂時には反映させますので、後ほど委員会にお知らせ下さい。

2. 文言の修正

コアカリ本文の細かな言い回しに関するものです。

対応： 変えて頂いてかまいません。コアカリのマイナーチェンジとして、HP で公表します。

3. 到達目標を追加したい

これもよくある要望です。

対応： 追加は認められません。ただし、「この項目はコアではない」という注釈を入れて、教科書に記述して頂いてかまいません。現時点ではアドバンス項目となりますが、次回のコアカリ改訂時には反映させますので、後ほどお知らせ下さい。(共通テキスト委員会からすでに通知済み)